大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 ◎(毎月一回二十五日發行)

阿武郡報

第五十一號

大正九年十一月廿四日印刷
大正九年十一月廿五日發行
發行所 山口縣阿武郡役所
山口縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷
印刷所 萩 響 海 館

目次

□鄉黨の爲に
□庶務
一町村長集會……一二
一敬老に關する町村の施設……一二
一福賀村役場廳舍改築……一三
□學事
一小學校女教員團体學事視察(其の一)……一四
□兵事
一大正九年度一年志願兵……三三
□産業
一麥作保証栽培……三三
一乾柿講習會……三五
一農事視察報告(其の二)……三七
一萩明木間四間幅改修道路開通……四六

鄉黨の爲に

本秋九州の野に擧行せられたる陸軍特別大演習陪觀の歸途受爵奉告及法要を兼ねて十一月十四日歸省せられたる田中陸軍大臣閣下は同十五日萩商業學校講堂に於て在鄉軍人、公務員其の他地方一般有力者等に對し極めて適切有益なる講演を試み最も深甚なる感動を與へられたり茲にその概要を摘載して一般の參考に資す

田中陸軍大臣閣下講演

□田中陸軍大臣の講演

段々遅刻致して御無禮致しました斯樣な所で久し振に皆さんに御目にかかり私は此の上もない仕合と考へます何か皆さんに一場の御話を致して呉れるやうにと御希望があり私も素よりそれは悦ぶ所であります上に折角何時か折あらば御禮を申したいといふ事柄を一つ持つて居るのでありますから此の席を拜借して御禮が申上たいと考へますそれは何であるかと申しますと私の直接監督致して居る事柄で私が其事に與つたわけでもありませぬが私から御禮を申すことが必要と考へます餘儀でもありませぬので私が當地に參つて段々在鄕軍人會の狀況を聞きますと近來餘程順況に向つて居るそうであります而して其の原因は皆さんの多大なる御同情が軍人會に裨益し先達は特に物質上の御裨助まで受けたと申すことで誠にこの御援助に對して私が會員一同に代りて御禮を申すのであります

申す迄もなく護國は軍人の專有にあらず是は國民共同の責務隨て有事の際の責務に對する軍人分會の事業は國民共同の責務であると考へてよくはないかと考へます これに皆さんが御同情をなし下さつたといふことと今一つ他の方面から何となく皆さんの御督勵といふことがあつたのと相須つて爰に順調に萩町軍人分會が向ふことを得たものであります或は皆さんに於ては左樣にまで御考にはならないかも知れませぬが軍人會から申せば御同情は一種の御督勵でありますそれが両々相須つて益々着實温健に進まねばならないものであります此上とも何か在鄕軍人會のことにつきて御氣附あらば何卒御申込を願ひたいものであります

猶又取りわけ御願を致して置きたきは私も今日は三四軒慰問を致しましたが戰病死者の遺族の中には隨分悲慘なる感を起さしむべき家族の狀態もあるやうで獨軍人分會のみならず皆さんも彼等は國家のために身命を捧げた遺族であること故に切に御同情あらんことを私から代りて御願致して置きます

爰で在鄕軍人會關係の御方には金谷天神の所に於て御話も致して置いたが軍人は共同が本務でありますこれなければ軍隊は存在をしないので軍紀なるものは共同の外ないのであります語は違ふが精神に於ては全く同一であります然るに私の鄕里だけに私が大に期待して居る萩分會が優良ならぬを聞いて是迄誠に心外に思つて居つたが段々順況になる所以を案ずるに一面に於て

在鄕軍人諸君の共同の觀念が旺盛になつたといふことを物語るものと考へますこの点が延きては矢張萩町の將來の發展につきても大に良き結果を來すであらうと思はれます

就中今日私は氏神の春日社に參り忠魂碑の出來る場所も聞きしが是は萩町ばかりでなく所謂舊峠内の聯合で萩町外三ケ村共同しての碑が建てられるといふ事で私は之を聞き一種愉快なる念を引起したのであります言ひ換へれば是は舊峠内の四ケ町村が軈て合同するといふ事の前提であると考へます別して國家に身命を犧牲にしたる記念として建てられるものが峠内町村の共同といふことは同時に總て皆さんの共同の觀念の厚くなつた結果であると考へるのであります此点につきては獨在鄕軍人のみならず諸君の考が漸次共同といふ方に向くのを證據立つるものと見られます全体私共が軍人會や青年團を指導する所以は歸する所共同といふことに向つて導くのでありまして動もすれば共同精神が缺乏することは東洋人の弱点であります

今迄兎角東洋人が歐米人から輕蔑され或は種別的に一段下つて待遇を受けるといふことは素より我々に取つて不愉快なことでありますが半面には自ら招くといふこともあり得べきことであります共同心の乏しき結果か遂に斯の通りでありますないが亞細亞洲では日本だけが獨今日の憲政を維持して居るだけでありまして支那も印度も殆今では國家の狀態をなして居りませぬ彼等は何のために斯る狀態に立ち至つたかといふと共同の力に缺乏し隨て集團の力を利用し得る事が出來ませぬ誠に恐多いことでありますが我が日本は上に連綿たる帝室の御君臨があるために能く國民の集團が成り立つので東洋唯一の有り難い國でありますがこの中心あつて初めて今日國家を持つて居るのでありますから能く御互に共同の缺乏が東洋人の通有であるといふ点に鑒みて努めないと今日の國家が有るか否かを疑ふの感が生じます

乍併何がために東洋人や日本人が共同心に乏しきか其の理由は如何であるかを種々研究して居りますが私共の聊か考へます所では社會の共同生存といふことの觀念が乏しいのでありはしますまいか日本などは一面には家族制度といふこともあつて至極結構でありますが其の反動として聊社會の共同生存といふことが薄らぎはせぬかと目をつけて居ります

元來家族制度は我々孔孟の敎に敎へ込まれ又傳統的に

我國に傳へ來つた我々の心念でありまして隨てこれが我が皇室の尊嚴を保たれ居る所以であり是が又日本帝國の特質として甚重んずべきことでありますされど斯く必要の組織なるを以て古來尤もこれに熱中したる結果社會といふものが吾人の生存するに極めて必要なるものでこれは共同の生存でなけらねばならぬといふことと更に大きくいへば國家が一の家族であり町村が一の家族であるといふやうに他人と共同する点が聊か後廻しになり來つては居らぬかと考へます町村あつて後に我々の家族の存在といふことがあります我々の家族のため卽ち我々の重んずる家族制度を成功せしめんと期するため換言すれば我々の家族的生活を容易ならしむるためには町村の繁榮もこれに伴はねばならぬことでありますが然るに其の方面になると聊か觀念が缺乏しては居らぬかと思ひます近來地方各地の狀況を調査しますに今日の地方の盛衰の跡を察し原因を究めて實にそれが共同觀念の如何に關係して居るといふことが見られますこの觀念の乏しき地方程生產的公共的の事業が後れて居りこの觀念の盛なる所は總ての点に發達が早いのでありますます極めて大なる例は東京と大阪とを比較すれば知れます大阪は今日は財界の影響を受けて多少經濟的不振の聲がないでもありませぬが是は一時的のもので早晩平常狀態に復しますが近來東京方は大阪が共同に於ても經濟に於ても大に手筈が合ひますので東京は段々大阪に勢力を奪はるるやうな傾きがあります昔は江戸などでは上方贅六と言つて大阪方面を馬鹿にして居つた氣味がありますけれども何ぞ計らん今や中心は大阪に移らんとして居ります何の故かといふに大阪は一つの事業にも工業にも交通にも常に能く話が纏まる氣味があつて何事も極めて共同的に行はれますに反して東京は總てか實行が出來ませぬ種々な計畫はあり考はありますけれども殆それが實行されたことはありませぬそれはどうかといふと兎角東京は何事も協議が纏らぬのでこれが爲に近來は總ての事が後れかちになります一方は何事も能く纏まり一方は終始紛糾に紛糾を重ね今日東京に居る人々は口を開けば東京市の腑甲斐なき狀態を語らぬものはありませぬ一例を申せばこの大都會の道路の狀を御覽になると殆大阪と比較は出來ませぬ歐米人は東京には道路なしといひ又それに類して萬事が不始だら千萬であります隨て何事か國家的社會的に事を起さんとする人でも東京から先に手を着けることはしないで大阪に行つて先づ之を纏めるそ

れから東京に取り掛ります以前は東京を纏めてから大阪を後にし東京が主で大阪が附從者でありましたが今日はそれが反對であります私共の關係して居る在鄕軍人會や青年團でも大阪があの大市でありながら能く有功に團結活動を致し中々健全に出來て居ります是は上方は概して計數に明るいといふことがありますが計數に明るいからそれ丈共同し又理解して一致するだらろうと思ひます其他種々の地方や方面に行つて見ても大阪と東京との比較程に顯著にはないが何れも傾向は同一であります山口縣下の例を申すと先達て宇部に行き新川に於て私は此の昔は見る影もなかつた寒村が今日あの如く下關に次ぐ程の人口も持つて山口などとても及ばぬ有樣でありますが如何にして斯く發展したかと人をして奇異の感を起させます素より石炭を產するといふことが主なる原因でありますが段々研究すると彼の地方の共同觀念の厚きを感服するのであります彼の地方には早くから總て共同合議的に事を計るの手筈が成つて居つて日本に國會の開けぬ以前から一種の立憲的組織があつたものです彼の地方は以前福原男爵の領地で炭坑は男爵家の餘裕財產になつて居つたものでありますそを維新後宇部村が引受けて共同義會といものを作つて萬事は會の方で整理し又種々の計畫を行つて來ました而一方に一般の意見を徵するには達聰會といふものがあつてこれにて總ての意見を纏めてはそれを共同義會にて實行します恰もあの小い所にて立憲的政治の善良なる方面が擇り拔いて實行されて居るやうな感があります是れが新川の急速發展の原因であります今日でも町村將來の經營などが如何にも順序よく計畫される教育事業其他も着々計畫實行されるのであります尤も特に斯る方面に盡力する人があつて現任萩中學校長岩田君の實兄紀藤君などは余程指導の中心となり率先となりて努力されるのでありますが要するに共同といふ氣分が萬事を生むのであります

私はそれを見て如何にも快感を覺えましたどうも共同の觀念の缺乏といふことを始終に心に留めて居つた目を以て宇部に行くと斯る有樣でしたから實に快感を覺え又發達した所以を覺ることが出來ました

それで是も亦憚らず申上ますが私の鄕里萩地方をこれと引較べて何となく御當地の狀態は物足らぬ感があります私が少しく此の機會に於て理屈上又は思想上の問題などいふことを申すより事實上の問題に觸れて諸君に申上げて見たいことがあります今日萩の發達の遲れ

たる所以は第一に交通機關を整理せぬからであるといふことは申迄もない事でありますが私はこれにつきて今少し萩地方の方々が共同といふことに重きを置き計畫をし實行をするといふ御考が徹底的に現はれたならば今日迄もなく交通機關は出來て居つたらうと思ふのであります此席に御關係の方ありて御耳障かも知れませぬが私は大嶺鐵道の出來る時萩には敷設せらるゝ理由があつたと思ひますもう彼の時萩に來るくてはならぬ運命でありましたが當時萩に於ける狀況は共同の考が乏しく右に行く方と左に行く方とがあつてそれが一つに進んで居られない若一つに進んで居られたら私は彼の時出來たに相違ないと思ひます最近に起り居る問題は萩小郡間輕鐵問題でありますがこれも今日の狀態では何時出來るかと成立を疑ふ次第であります

併し此處に講究すべき問題は別に船木鐵道會社もあり宇部鐵道會社もあり是等は萩の計畫したるものと一部分は殆同一線路の競爭なり而宇部方面の話を聞くに厚狹郡長及彼の郡の代議士などの言はるゝ所に據れば彼の地方にては何とか萩方面と協定して無益の競爭を避けたく競爭すれば互に不利益であるから互に努めて共同せんとの考であるらしく頗る正義を以て論議されつゝあり又共同する上に於ても先方は或程度迄は既に敷設し居ることなりこちらは今からのことなり併し先方は極めて輕微なる條件にて萩地方をして容易に共同し得らるるやうに計らひ斯くするは單に萩のためのみならず山口縣の爲といふことを言ひ以て何とか談合を纏めたいといふ考を持つて居ります私は斯る場合には大田より小郡間といふ問題もあるけれども大局より見て共同して誠實に彼地の人と手を握り早く成功を期するの必要あらんと考へます若も此の機會を失ふと萩の交通機關は又幾年か頓挫することになりはすまいかと憂慮するのであります先づ彼地は協同して萩方面から小郡へも宇部へでも何れにしても大差なきこと故に早く萩より山陽線とこふ大局の決定をつげるが宜しいのであります小郡に對しては何れ連絡すべき運命を持つて居ります故に是は後に出來ることであります斯樣の点を一致して行くにあらざれば當地の發展は依然として遲々たるものでありませう若前申したる如くにすれば萩に於げる海路も若干の整理せらるる機會が出來て海上の風浪は幾等か荒き地方であるけれども水陸に完全なる交通機關を持つことが出來るやうになり左樣になれば萩地方は期せずして段々と工業も起り生産力も增

加するようになります特に山口縣としては阿武川は動力を利用すれば可成大なる力を有するの川であります今でも他所より其れを利用するといふ狀態あり今少し研究すれば動力を出すことも一層出來て工業も興らうと思ひます兎角は今日迄萩の總ての点に於て遲々として居るといふことは圓曲の語にていふより寧有躰に申上ぐれば萩地方の共同觀念の缺乏が之を來したものだといふことを私は適切に感じ又之を申したいのであります甚失禮なるもどうか御諒察を得たいものであります

又先刻申した在鄕軍人會のことにつき今少し申して見ますがどうも萩地方の在鄕軍人會の發展が優秀でないといふことは昨年も注意したことでありますが種々の原因中にてどうも物が纏らず中にてでたつきがあつてこれが不振を招く所以なることは昨年も大に之を言ひました私は在鄕軍人會の共同觀念の欠乏は萩地方の狀態を能く寫影して居ると思ひます大抵青年團が宜しければ軍人會の狀態にて地方の模樣は知れるものであります青年團が宜しければ軍人會も宜しいもので是は言はいでも極めて明瞭なことであります二者共に宜しければ問はずして其の地方の自治躰たる町村の仕事も穩健に發達して居ることは知れます特に御當地の如き生産上の力に見て兎角發展の度合が今の如くであるといふことに關しては一段其感を深くするのであります彼の明治四十五年から大正元年にかけての大嶺鐵道線に鑒み今日は一致共同して進んで大局の上より考へて萩の海面と山陽の鐵路とを結びつけて置き其後で小郡と結ぶか宜しいのであります宇部方面にも小郡大田間といふことは能く了解して居ることであります之を縣知事に問ひますれば萩の人が虛心で眼を大くして大同的に一致協同しやうとするならば此の問題は直出來ることであつて是で山口縣が良くなることは一通りでない縣から見ても誠に仕合せと考へるどうか地方に有力なる方々も多數あることであるから盡力があると好いといふことであります私共若輩の身として先輩の方に申すも聊憚る所がありますが此際何事も已を虛しくして共同一致に進むといふことがこれが萩を開發する所以でばありますまいか

共同生存の要義といふことを皆さん鄕黨の方々に切に勸告しますが私は宇部に行きこの協同の話につきて即ち鐵道問題につきて特別に聞き合せても見ましたし又萩よりの希望も昨年以來萩町長の上京などがあつて能

く聞いて居りますから此度を好機會として其の事柄を聊か研究して見たわけであります是は私が出來心で一時的に申すわけでなく萩の將來を慮り萩を發展せしむるには此の一点に猛進し何卒議論を後にして一致して進まるるを極めて必要と感じましたから何も憚らず申す次第でありますぞうかこの事柄が皆さんの御參考の一端ともならば爰に御目にかかりし甲斐あるを悦ぶのであります

それからこれも少し申し悪いが今一つ申したきことがあります他府縣の人が萩に來ると萩に於ける感はどうでせうか私が屢之を聞くと曰く萩は實に別天地である如何にも其地方の人々の樣子や應待の狀を見ても我々が不斷接して居る彼の山陽沿岸の方面の有樣とは全く違つて居る萩の人は如何にも素撲で如何にも眞面目で萩に行くと誠に愉快の感があるといふのであります私は之を聞いて悦ぶのでありますが併し一面に於て萩の人の人情風俗は然らんも萩の人の一般の精神的狀態は別として萩の人の氣慨といふことは如何と聞きますとそれは又人が頗驚き怪んで居るやうであります即あの緊張せぬ風俗人情の所から多くの人物が出たといふことは頗奇怪の感がある萩ばかりでなく山口縣は全躰に於て歴史的材料も多く有名な所である意氣潑剌たるものがあるに相違ないと期待して來て見ると案に相違すると誰も皆言ふのであります萩に來て如何にも温順で如何にもおとなしいと人が申しますそれを聞いて即ち一面には悦ぶが一面には氣にもかかります今日は兎角危險思想などいふ一種忌むべき悪い思想に共鳴し賛成するといふやうなことが段々行はれたり出來たりしますが矢張今日に於ても萩地方は誠實な方で斯ることは更に萩には見向けぬのを深く悦びますが氣慨がどうかいふと案に相違といふ程缺乏といふことは何人も認める所となつて居ります何人も皆萩といふ所は若い人などには元氣が有り餘る程あらうと思ふて居つたので實際は然らずして意氣銷磨して居るに驚くと誰も言ひます大躰よりいふと山口縣は生活狀態の平均せる所にて全國中郵便貯金なども山口縣が第一で山口縣は富有の縣であり山口縣の生活狀態が誠に穩かと言はれて居ります郵便貯金が第一のみでなく産業組合の貯金も第一でありますそれで昔の言葉に衣食足つて禮節を知るといふことがありますが是には何となく少々首を傾けざるを得ませぬ禮節を知るといふことより安逸を貪る意氣銷沈といふことになつて是れが私共の耳に屢這入り

ますので言ひ悪いが憚らずに申します

それでこの安逸といふことに關係を持つことでありますが萩には恩給生活者が誠に多く殆他に類がありません恩給生活をする者が多いといふことはそれだけ活動せぬ人が多いといふことを意味します活動せぬ人が多きは特に若い人に對しての思想の上に影響しはせぬかを思ひます私は今少しこの事を適切に申したいと思ひます故に暫く言葉の悪いのは御許を願ひます偖恩給生活といふことは一種の遊民でありますこれにて生活が出來れば好んで働く必要はありませぬ恩給だけで安樂に世を送られますそれ故に私共が恩給額を増加したいといふのに始終反對の考を持つて居る人があります恩給を増加するといふことは好きも遊民を多くする乃至これが亡國だといひます恩給増加に盡力しようとする一方に反對者は曰く恩給のために財政は負擔過重となりて大金がつぶれ人間は亡國となりてこれを貰ふ人はどうも働かないことになると私共は敢てそれに耳を傾けて自分の考を變じやうとはしませぬが併し一部はこの議論や理屈が眞實であります而して其の遊民は自ら働かぬばかりでなく融々閑々として居る故に若い人の氣風までが消磨します此の御席にては私共の友達が甚多くそれにも係らず之を申すは誠に無遠慮でありますが萩の方は我々と同鄕の方で同じ所で飯を喰つて育ち特に私は萩に生れて萩の人となり何時でも御心安く所謂水入らずの中故に憚る必要もありませずさらげ出して申しますが所謂遊民として非難を受けるおそいふことは大に顧慮せねばならぬことであります故に恩給を受け居らるゝ人は率先して公共に働き特に共同といふことを考へ何事も地方事業の調和の機關となり些かでも共同觀念に響きの入らぬやうに此点に專ら御盡力になり其他公共的事業には率先して御働きになり所謂遊民でなくして活動の中心となられたいこれが彼の若い人の氣慨や意氣と申すことに多大の力を與へることでありませう

このことは元來私としても今日考へるだけでなく以前から聞いたことがあります山口縣は昔より富有の所で長州は御維新の際に大事業をなしたる所以を考ふるに是は急遽に出來たでなく彼の村田清風以來段々養はれ來つて百年來のことでありますが其の前の昔は長州人は比較的に氣力なしと稱へられて長州ッヤンコといふ語があつて長州の二本差しは輕蔑の意を以て斯く呼ばれたもので氣力の無い侍といふ代名詞であつたそうで

すこれを顧みて大に意氣を皷舞激勵して遂に維新の大業も出來たといふのであります今日にても之を振興せしめて當時以上に努力し若い人の氣を皷舞するといふことにつきては各位先輩の方が大に努力さるゝ必要があります

衣食足りて禮節を知るより安逸を貪らざるが大に必要ではありますが元來動物の自然は衣食が足ると安逸を貪るのが自然であります禮節を知るは教育の結果であり激勵の結果であります之をせねば長州リヤンコの時に跡戻りをしばせぬか而してこの若い人物を皷舞激勵して腕をまくつて進んで取るといふことにすると自分の功名成功は目前にあります手を拱いて居ては成功は出來ないので自ら進んでとらねばなりませぬ自らあぐらをかいて居ては何事も來ない之を能く青年に吹き込み激勵せねばならぬのでこれは教育界の人のみの責任ではありませぬ地方人士の責任でありますが所謂恩給生活者の努力すべき方法と考へます或は活動すべき餘地や仕事をなすべき点を見出すに困らるゝか知りませぬが進んで教育事業に應援し或は中等學校の教育に貢献する等が第一着に賊によいと考へます其他公共事業には何に對しても活動盡力が尤も適切の場所ではありませぬか然らずんば段々恩給者も將來は增加を致し來るといふ故に何時の時代か恩給遊民といふやうなことを人の唱へる如く實現して非難的の論が的中したといふことに彼等をして言はしむるやうになりはしますまいか何卒遊民とならず社會活動の中心となられたく特に當地の如き多數の恩給生活の方の居らるゝ地方に於ては左樣に考へて注意する必要が大にあります私が陸軍大臣として言ふわけではなく友達として又口の惡い親切として言ふやうな次第をどうか諒察して御聞取を願ひます猶語りたきこともありますが先の仕事もあり時間の都合上これにて打切りたいと考へます長い間御清聽を煩はした段を深く感謝します

右講演終了後直に明倫小學校講堂に一同を會し大歡迎會を開催せり席上岡村郡長の朗讀したる田中陸相歡迎の辭左の如し

歡迎之辭

謹ンテ男爵田中義一閣下ニ啓ス金氣清肅ノ時陸軍大演習ノ九州ノ野ニ行ハルルニ當リ閣下ハ六龍ニ陪シテ軍政ヲ宰シ回轅ノ途次休沐ヲ賜ハリテ鄉ニ歸リ祖先ヲ展祭シ故舊ヲ存問セラル鄉黨ノ人誰カ感歎セサランヤ閣下已ニ軍國ノ重寄ニ膺リ上下ノ倚信ヲ負ヘリ曩ニ歐洲

戰爭ノ起ルヤ禍亂ノ及フ所甚廣大ニシテ帝國亦タ戒嚴ヲ要スルモノアリ閣下方ニ局ニ當リ機務ヲ主リ日夜心膽ヲ碎キテ盡瘁ノ誠ヲ竭サル是ニ於テ

聖上ハ閣下ノ勞功ヲ嘉賞アラセラレ特ニ榮爵ヲ授ケタマヘリ閣下ノ光榮大ナリト謂フヘク、シカシテ閣下ノ先祖ニ對セラルル孝道コレヨリ大ナルハ莫カルヘシ熟々往時ヲ考フレハ毛利氏ノ養成ヲ受ケタル中國磅礴ノ氣ハ夙ニ海内ヲ震動セシメ關ケ原戰後ニ其粹ヲ鍾メタル我防長ハ猶天下後世ノ爲ニ重任ヲ自覺シテ優ニ文武ノ士ヲ涵養シ遂ニ維新大業ノ中樞ニ立チテ帝國現時ノ光輝アル文明旺盛ナル勢威ノ基ヲ樹テ更ニ進ンテ國家社會ノ活動發展ニ赫赫ノ勳ヲ建テタリ、シカシテ維新後五十餘年羣英漸ク凋落ニ歸スル今日閣下ハ忠誠剛毅ノ德ヲ以テ克ク先輩偉傑ノ武ヲ接キ寄任カクノ如ク重ク武勳カクノ如ク高シ洵ニ防長ノ爲ニ千鈞ノ重キヲ爲サルト謂フヘシ宜ナルカナ榮爵特授ノ典アルコト若シ他日臺閣ノ首班ニ就クヘキ棟梁ノ材ヲ防長人中ニ求メハ誰カ先ツ指ヲ閣下ニ屈セサルモノアランヤ是啻ニ閣下一身ノ光榮タルノミナラス卽チ我カ防長ノ盛事ナリ不肖等豈中心ヨリ欣躍セサルヲ得ンヤ又思フニ閣下ハ獨リ先輩ノ偉績ヲ紹カルルノミナラス更ニ後進子弟ヲシテ之ニ繼キテ益々其美ヲ濟サシメント欲シ特ニ鄉黨ノ爲メニ誘掖鼓舞至ラサル所ナシ是實ニ閣下カ防長傳來ノ責務ヲ把持シ天下ノ重キヲ己ノ任トセラルルニ職由ス防長人タルモノ豈深ク之ヲ感謝シテ閣下ノ誠意ニ答ヘンコトヲ務メサルヘケンヤ抑々彼ノ四境戰爭ニ防長人士ノ意氣ヲ確實ニ發輝セシハ諸先輩ノ皷舞激勵ノ力ナリ今ヤ閣下ノ指導ノ下ニ鄉黨人ノ奮起輩出シ局面ノ更ニ大ナル國家ニ力ヲ致スアラハ其壯觀何如ソヤ但人心ノ一致セントスルヤ動モスレハ邪說俗論ノ之ヲ害フモノアリ維新前防長有爲ノ士ノ非命ニ斃レシモ多クハ之カ爲ナリ顧フニ現時ノ天下果シテ之ニ類スルモノナキカ幸ニ閣下明察審量シテ邪ヲ塞キ正ヲ通シ之ヲ敎訓鞭撻セラルル所アラハ防長人ナシテ藩祖白万一心ノ遺訓ヲ體シテ範ヲ天下ニ示シ往時ニ忠勤セシメマコト日ヲ指シテ期スヘク其成果ハ當ニ往時ノ活動ノ上ニ出ツヘシ亦壯快事ナラサランヤ爰ニ地方官民擧ツテ歡迎ノ儀ヲ行フニ當リ恭シク閣下ノ福壽康寧ヲ祝シテ村醪野肴ヲ進メ且微衷ヲ披瀝ス願クハ閣下之ヲ諒トシタマハンコトヲ

大正九年十一月十五日

陸軍大臣男爵田中義一閣下歡迎會員一同

◎庶務

□町村長集會

本月十四日郡會議事堂ニ於て本郡町村長集會を開催せり當日郡長より指示したる事項其の他左の如し

▼指示事項

一、例月及臨時會計檢査勵行ニ關スル件

町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メ之ヲ檢査シ且會計年度少クトモ二回臨時檢査ヲ爲スヘキコトハ町村制ノ命スル所ニシテ當然勵行セラルヘク猶精覈ヲ期スル爲當衙ニ於テモ時ニ臨ミテ吏員ヲ派シ出納ノ實績ヲ精査セシムルコトアリテ稍其ノ整頓精確ヲ見ルニ至レルモ未タ全部ニ達セス往々例月又ハ臨時ノ檢査ヲ執行セラレサル向アルコトヲ發見セリ如斯ハ自ラ出納事務ヲ輕視シ動モスレハ延テ財政ノ基礎ヲ危フスルノ因トナルヘシ各位宜シク意ヲ茲ニ致シ檢査ヲ嚴重ニ執行セラレタシ

▼注意事項

一、海軍志願兵ニ關スル件

一、官行造林ニ關スル件

▼打合事項

一、養蚕業ニ關スル協議會開催ノ件

□敬老に關する町村の施設

萩町

大正六年以降町主催となり毎年一回町内八十歳以上の高齢者を明倫小學校講堂に招待し神官をして其の長壽を祈らしめ御酒を戴かしめて祝餅及老人に適當なる仕向を爲し優良兒童を選拔して學藝會を開く等大に歡待に努め町吏員、町會議員及小學校教員共に之か接待の任に當れり

椿郷東分村

大正四年御大典に際し村内七十歳以上の高齢者を小學校兒童体育會に招待し祝餅を配れり

椿村

大正四年御即位の大典を機とし村主催となり毎年十一月三十一日天長節祝日は同村小學校舍改築落成記念日に相當するを以て當日村内八十歳以上の高齢者を招待して体育會を觀覽せしめ且折詰の饗應を爲す此間青壯年

團員及同窓生は大に斡旋に努ひ

明木村

大正四年十一月村内に設立せる女子因會に於て尚齒會を催し七十歳以上の高齢者を小學校に招き折詰の饗應を爲し且守札、祝餅、高齢者名簿を配付し兒童の遊戯及寫聲機等の餘興を催せり

同村瀧口吉良氏は毎年七十歳に達したるものに對し邸内仰德堂に供へたる御酒一舛宛配付せり

川上村

大正八年村に於て八十歳以上の高齢者を小學校に招待し酒肴を供し祝餅を配付して一日の歡を盡さしむ

篠生村

大正四年御大典記念として村に規程を設け毎年一回以上高齢者を訪問して其の安否を詳かにし必要に應して賑恤の途を講することとし各種公會に於ては八十歳以上の高齢者に對しては特に席を設けて優待し且毎年十一月敬老會を開き酒肴を供して之を慰む

德佐村

青年團及處女會の主催に依り明治四十一、四十二、大正三、五年の四回七十歳以上の高齢者を小學校に招待して晝食を饗し席上青年處女の特技を演し或は兒童の學藝會を催して一日の慰安を與へり

宇田郷村

村社宇田八幡宮に於ては大正二年より同惣郷御山神社に於ては大正五年より各社とも毎年一回七十歳以上の高齢者に對し無事長久を禱り直會の式を終りて一同に守札を授く

彌富村

大正四年十一月御大典に際し村は六十歳以上の高齢者を小學校に招待し小宴を催して敬老の意を表し兒童体育會をも觀覽せしめて紀念の木杯一箇を贈れり

見島村

御大典記念事業として村に於て尚齒會を設立し八十歳以上の高齢者を小學校に招き酒肴を供して慰安を圖り大正四年十一月以降毎年之を實施せり

□福賀村役場廳舍改築

福賀村は本郡中央山間部に位し戸數六百四十三、人口二千八百六十一を有し農を以て主業と爲す村は氣候の關係

上各種の產業著しき發達を見るに至らすと雖も村治圓滿にして近時順個ある成績を擧けつつあり乍併從來の役場廳舍は村全体より見て頗る不便の位置にあるのみならす本道を隔たり通路不完全にして僅に畦道を利用せるに過きす加ふるに建物は曾木葺にして老朽甚しく到底使用に堪へさるより大正四年八月三十日御大典記念として之か改築費金の積立を決議し同七年三月更に移轉改築の速成を決議せしか位置問題に關し多少の議論を生せしも結局圓滿なる解決の下に現在の位置に移轉改築することとなり同年十一月工を起し漸く本年九月竣工して十一月三日盛大なる落成式を擧行せり而して廳舍総面積其の他左の如し

▼廳舍総面積　五百四十一坪二合

内譯

敷地　三百四十五坪七合

通路　二十一坪八合

▼建物総坪數　九十一坪六合

内譯

本廳舍　二十九坪二合

議事堂　二十一坪

宿直室外四室　十三坪三合

記錄室　七坪五合

物置場　六坪

應接室　二坪二合

印刷所　一坪

廊下玄關　七坪七合

便所（三ヶ所）　四坪

▼工事総費金　九千五百圓

◎學事

□小學校女教員團体學事視察（其一）

本郡に於ては十一月九日より六日間郡内小學校女教員團体を組織して植野郡視學引率の下に福岡縣下小學校體育學事視察を擧行せり而して其の概況左の如し

▼視察員▲

宇田尋常高等小學校訓導　財滿謙子

地福尋常高等小學校准訓導　中村花子

椿西尋常高等小學校訓導　堀江ヤエコ

白水尋常高等小學校訓導　安野タケ

明倫尋常高等小學校訓導　一來テル

椿東尋常高等小學校訓導　阿部ツチ

上小川尋常高等小學校訓導　西村ヒサヨ

奈古尋常高等小學校訓導　澄川アイ

仝　岡藤モト

福川尋常高等小學校訓導　中村モミヨ

同　行者

大井尋常高等小學校長　弘津一久

紫福尋常高等小學校訓導　岡棄熊

右引卒者　郡視學　植野幾太郎

▼視察日程▲

十一月九日　一同小郡町に落ち合ひ團體となり小郡驛前萬治旅館に一泊

十一月十日　午前六時二十五分小郡驛出發、午後零時四十分福岡市到着午後一時より同市奈良屋小學校視察博多川丈旅館に一泊

十一月十一日　午前中同市唐仁尋常小學校視察午後一時より生活改造博覽會觀覽、午後三時二十分福岡市出發飯塚町に向ひ七時到着加島旅館に宿泊

十一月十二日　飯塚尋常高等小學校　飯塚高等女學校視察（一部隊は立岩尋常小學校視察）同地宿泊

十一月十三日　午前六時二十分飯塚出發確井村に向ひ、同八時三十分到着確井尋常高等小學校視察、十一時三十分大隈町に向ひ大隈尋常高等小學校視察午後三時二十分大隈驛出發歸途に就き七時五十分下關歸着同地にて團體解散、當地、宿泊せるものと小郡迄歸りしものとわり

十一月十四日　歸任

▼視察要項▲

福岡市唐仁尋常小學校

當校は學級十八、兒童九百八十名教員二十一名にして約半數は女教員、校長梶原辰之助氏は一ヶ月前に當校に轉任し來られしものにて体操主任の教員より從來の研究經過体育方針、諸施設等を聽き尋五以下五學級女兒童の体操實習を視察す

體育方針

兒童の身體を養護して其の發達を助長し更に之を鍛練して其の体力の增進し以て現在の修學を進め將來の國民生活を完ふし得るの素地を與へんことを期す此の方針に副はんがため特に留意すべき事項左の如し

第一項　國民體育の必要を自覺せしめ及体育に必要なる知識技能を授け自ら進んで終生之を實行せんとするの態度を養ふべし

第二項　學校衛生上の諸施設を良好にし併せて衛生上の良習慣を得せしめんことを務むべし

第三項　指導体育並自由体操に必要なる諸器械器具を整理し体操科の教授を中心として各種の自由体育を綜合し以て學校体育の實績を擧くべし

第四項　意志活動を促進すること、及び團体的精神を養成すること、以上の二は特に體育の實績を進め又体育の實績に待つこと甚だ多し、故に當校教育の總ての機會に於て之を併進せしめんことを努め以て益々体力氣力の充實を計るべし

第五項　學校は家庭と共同して成るべく各人につき適切なる方法を講せんことを務め特に左の各項に注意すべし

體養と營養とを適良ならしむること
身体檢査の結果を利用すること
家庭の要求により取扱を斟酌すること

體育上の施設

▼第一項に對する施設

一、修身、國語、地理、理科、体操等の諸教科の教授に於て体育は自己に對する義務なると共に又實に國家に對する國民の義務なる所以、並に歐米の國民体育の狀況に比較して特に我國民体育の重視すべき所以を知らしむること

二、以上の自覺に基きて終生体育保健の事に注意し且つ實行せんとする態度を養ふこと

三、体育保健に關する智識趣味及技能を與ふること

四、運動會遠足登山等の前後に於て特に体育に關する訓話をなすこと

▼第二項に對する施設

甲學校衛生上の諸施設

一、校地校舍の整理清潔を計ること

二、教室に於ては特に左の各項に注意すること

イ、換氣通風を良くすること

ロ、光線を適度採ること

ハ、氣温に應じて適當なる處置を採ること

ニ、机腰掛の高さを適當にすること（年二回全校整理）

ホ、兒童の席次に注意すること（毎學期の始に席次變更）

ヘ、塗板の品質を良くすること

ト、其他教具の品質及取扱に注意すること

リ、兒童の疲勞狀態に注意し教授中臨機調節運動を行ふこと

三、校地校園に樹木花類を植ゑること

四、服裝は薄着を奬勵し時々服裝檢査を行ふこと

五、洗面洗身洗手足の設備を整へ之を奬勵すると共に時々身体檢査を行ふこと

六、家庭に於て時々食鹽水含嗽洗面を行ふ樣奬勵すること

七、運動場に撒水をなすこと

八、便所の清潔法及消毒法を勵行すること

九、トラホーム白癬等の如き傳染性の疾病に對しては特に治療の道を講すること

乙衛生上の良習慣を養ふこと

一、營養機能に對して

イ、飲食物の質、量、及時の規律について

ロ、十分に咀嚼すること

ハ、齒の保護に注意すること

二、呼吸機能に對して

イ、鼻腔を清潔にすること

ロ、煤煙、塵埃を避くること

ハ、換氣通風に注意すること

ニ、呼吸に適する姿勢及服裝に注意すること

三、皮膚機能に對して

イ、身体衣服を清潔にすること

ロ、なるべく薄着すること

ハ、日光、水、土等に暴露すること

四、感覺機能に對して

イ、規律正しく生活すること

ロ、感覺器官の保護に注意すること

第三項に對する施設

甲指導体育

一、體操正課（教授要項に基き實施）

二、體操演習會

毎月一回校庭又は郊外に於て全校又は各部分れて行ふ

三、運動會

毎年一回校庭に於て全校行ふ

乙自由體育

一、徒步競走會

毎年五回校庭又は谷練兵場に於て全校又は各部に分れて行ふ各學年別又は各町別により選手競走を行ふことあり

二、遠　足
全日遠足　毎學期一回
半日遠足　毎學期一回以上
三、海　水　浴
四年以上の男女　三週行（七月十五日開始九月七日終了）
四、自　由　運　動
イ、運動場を若干區に分ち各學級別に區域を定む
ロ、十五分間の休憩には激しき運動を避けしむ
ハ、器械類は使用割を定めて各學級に配當す
ニ、使用時間は始業前三十分より放課後一時間とす
ホ、各器械には監督のため六學年より兒童二名を附添ふ

▼第四項に對する施設
甲意志活動を促進すること
一、兒童の學校生活の總てを通じて自由活動を促進することに努ひ
二、勤勞的作業を重んず
三、跳躍運動徒步競走を奬勵す
乙團體的精神を養成すること
一、兒童の學校生活の總てを通じて團體と個人との關係を知らしむ
二、朝會に於て團體的行動に慣れしむ
三、其他の會合教育の機會に於て此精神を養成すること
四、五學年以上には特に團體的自治を奬勵すること

▼第五項に對する施設
甲休養と營養とを適良ならしむること
一、睡眠時間は九時間乃至十一時間を與ふること
二、辨當は成るべく大型を持たしむること
三、間食を多く與ふるために食量の減ずることなき樣注意すること
乙身體檢査の結果を利用すること
一、體育奬勵に資すること
二、兒童をして體力增進自覺を與ふること
三、特殊兒童に對する注意を與ふること
丙家庭の要求により取扱に斟酌すること
一、教室内の席次を適當にすること
二、體操其の他の場合に於て體質に應じて適應なる取扱をなすこと

一、運動場及器械器具の設備

一、運　動　場
面積一千五百三十坪（兒童一人當一、五坪）
二、屋内体操場　七十二坪
三、運動場に設備せる器械

肋木　三間六〻	四個
攀登臺三間、棒二十五本	一個
跳上り跳下り臺　四間	一個
砂場　二ヶ所	三十二坪
高跳臺	一個
鐵棒　二間	六個
平行水平棒　二間	六個
固定圓木　二間	四個
滑臺	二個
棚	一個
雲梯　三間	一個
平均臺　二間	十六個
腰掛	五十六個
跳箱	四個
パック	二個

四、屋内體操場に設備せるもの

肋木　十間	一個
攀登棒	二十本

五、遊戯用器具（記載を略す）

教授方針

▼第一項　兒童心身の狀況に適應せる運動をおさしめて運動機能並新陳代謝機能を調和發達せしめ特に四肢の動作を機敏耐久ならしめ、及身體の動靜を問はず常に正しき姿勢を保たしめ以て全身の健康を保護增進せしめんことを務むべし此の方針に副はんがため特に留意すべき事項左の如し
一、下學年に於ては主として兒童の活動性及遊戯の興味を利用して快活に運動せしめ上學年に進むに從ひ漸次正規の運動を課し各種運動の目的性質分量及變化を考へて教程を定め、一時間内に於て可成多くの運動を有効に行はんことを旨とすべし
運動は實施時間の長短、當日の氣象前後時間の關係等を顧慮して緩急强弱を加減し又兒童各個の身心に適應せしめんことをつとむべし
二、身体各部の調和的發達を期せんがためには可成各種の運動を配合して身体各部を普遍的に運動せしめ又局部的運動及循環機能に及ぼす影響を調整せんこと

に注意すべし一時間に行ふ運動は時間の長短に係らず必ず一教程たるべし

三、四肢の動作を機敏ならしめんが爲めには主として四肢の運動を行ふ際初めには運動の要領に從ひて確實に動作せしめ漸次練習を積み容易に自由に且速に四肢を動かすことを得るに至らしめ次に可成精神を刺激して自ら機敏に四肢を動かさんとする努力を起さしむることに留意すへし又時々機敏を要する競爭遊戯を課し個人に適切なる奬勵指導をなすへし四肢の運動を耐久ならしめんが爲めには主として四肢運動をなさしむる際常に意氣を鼓舞し全力を傾注して動作せしめんことに留意し運動の種類により己に要領を會得せしめたるものには適宜長く持續して之を行はしめ又は耐久を要する運動中器械を用ふる運動及強力なる競爭遊戯等により徐々に耐久力を養はしむることに努むべし

四、正しき姿勢は正しき運動によりて習成せらる故に運動は最も正確に行はしめ特に運動の終始の姿勢に注意し又矯正のために行ふ運動を加へ發音を助長する爲めに行ふ運動と相俟つて端正なる姿勢を得しめんことを努むべし

▼第二項　運動を爲さしむる間常に意志活動を鼓舞して精神を快活剛毅ならしめ又勇氣忍耐等の習慣を養ひ健康の增進と相俟つて体力氣力を旺盛にし現在の修學を進め並に將來の實生活を完うし得るの素地を與ふべし此の方針に副はんが爲に特に留意すべき事項左の如し

一、精神を快活ならしめんが爲には運動の種類及運動量等に注意し適當に兒童の運動慾を滿足せしめ之に伴ひて自ら生ずる精神上の快活を誘發せしめんことを務め特に努力を要する運動を爲さしめたる後には運動後に於ける努力に伴ふ快感を自得せしめんことに留意すべし凡て運動に對してはつとめて兒童をして其の目的要領等を理解せしめ又成るべく多く賞揚して愉快に自ら進んで爲さんとするに至らしめ特に遊戯に於ては教師自ら快活なる精神を持して輕快に兒童に接し兒童の自由活動を促進せんことをつとむべし

二、精神を剛毅ならしめんが爲めには平素運動を行ふ際意氣の充實を尙び漸次困難なる運動を遂行せしめて自信を得しめ特に體力要することを多く努力久しきに耐ふるを要する種類の運動を課する場合には兒童身体の狀況を顧慮し兒童の精神を激勵鼓舞し其の目的を達せざれば止ましめざる樣指導すべし

三、高學年に進むに從ひ更に勇氣忍耐等の習慣を養ひ体力氣力を旺盛ならしめんことに留意し耐久强力の運動を加へ特に團体の競爭遊戯等に於ては勝敗のみに著目せしむることなく堅忍不拔の精神を以て自己の任務を果さしめんことをつとむべし

▼第三項　協同により運動をあさしむる間漸次團体に對する個人の責務を感知せしめ規律を守り協同を尙ぶの習慣を養ひ以て國民たるの自覺を養ふに資すべし

此方針に副はんが爲に特に留意すべき事項左の如し

一、規則を守り協同を尙ぶの習慣を得しめんには命令を確守し行動を確實整齊たらしめ團體として行ふ運動の目的方法並に團体の一員として爲すべき任務を了解して自覺的に事に當らしむる樣にし運動の結果につきて批評を加へ又は反省せしめ自ら規律協同の必要に感じて運動するに至らしむるべし

團体遊戯は特に團体の一員なりとの自覺に基きて爲さしめ、自由活動の間に於て規律協同の甚だ必要なる所以を理解せしむべし

二、團体の一員なりとの自覺より導きて漸次國民たるの自覺に及ぼし体育が自己の爲めのみならず又實に國家に對する國民の義務なる所以を理解せしめ以て益々國民たるの自覺を高調せんことを期すべし

三、高學年兒童に於ては教練の間に自ら軍隊教育の精神に觸れしめ尙武氣象を長せんことをつとむべし

体操教材配當一覽

學年	學期	運動
第一學年	一	足尖開閉（手腰直立） 踵上下（直立） 手腰直立
第二學年	一	前歩（二歩—七歩） 側歩（二歩—七歩） 後歩（二歩—七歩）
第三學年	一	屈膝擧股（手腰直立）
第四學年	一	脚前振（手腰直立）
第五學年	一	足各方出踵上下 側出 斜出 前出 踵上下（手腰直立）
第六學年	一	足各方出擧踵 半屈膝（手腰直立）

肢		上肢			頭	
二	三	一	二	三	一	二
足前出（手腰直立） 足後出（手腰直立） 足左（右）出（手腰直立）	前歩（一歩） 側歩（一歩） 後歩（一歩）	屈臂（直立） 臂ノ前擧（開脚直立） 臂左右伸（屈臂開脚直立）	臂左右下伸（開脚直立）	臂左右擧（直立）	頭後屈（手胸直立 手腰直立）	頭前屈（手胸直立 手腰直立）
二	三	一	二	三	一	二
擧踵半屈膝		臂上伸（屈臂開脚直立）	臂上下伸（屈臂開脚直立）	臂前上擧（開脚直立）	頭左右轉（手胸直立 手腰直立）	
二	三	一	二	三	一	二
足斜前出（手腰直立）	足斜後出（手腰直立）	臂前伸（屈臂開脚直立）	臂前下伸（開脚直立） 臂側上擧（直立）	臂前屈（直立）	頭左右屈（手胸直立 手腰直立）	
二	三	一	二	三		
脚側振（手腰直立）		臂左右上下伸（直立） 臂ノ左右前伸（直立）				
二	三	一	二	二		
屈膝足前出（手腰直立）	屈膝足側出（手腰直立）	臂左右開（臂前屈直立） （開脚直立）				
二	三	一	二	三		
		臂左右振（臂前屈直立 臂側伸直立） 臂ノ各方振チ組合セタルモノ				

	臂脚聯合	胸			懸垂			平
三		一	二	三				一
擧踵（手腰直立）	（頭後屈）							擧踵（手腰直立）
二		一	二	三				一
擧踵半屈膝	（掌外反頭後屈）							閉足擧踵（手腰直立 手胸直立）
三		一	二	三	一	二	三	一
足斜前出（手腰直立）	（本學年ヨリ簡單ナルモノヲ課ス）	上體後出（手胸足前出 直立 手腰開脚直立 手胸直立 手胸閉足直立）			（攀登）			擧踵半屈膝（手腰直立 手胸直立）
二		一	二	三	一	二	三	一
脚側振（手腰直立）		上體後屈（臂側擧 足前出 開脚 閉足）直立	臂側伸掌及（開脚直立）		懸垂直立屈臂擧踵 懸垂直立伸臂屈膝			脚前擧（手腰直立） 脚側擧（手腰直立）
二		一	二	三	一	二	三	一
屈膝足前出（手腰直立）		上體後屈（臂上擧 足前出 開脚 閉足）直立	上體後屈助木支持		懸垂直立擧踵 擧脚 懸垂直立擧踵 屈膝擧股			脚前伸（手腰直立） 脚後伸（手腰直立）
二		一	二	三	一	二	三	一
		擧踵（助木支持開足直立）			兩側懸垂臂立懸垂 懸垂左右振動 懸垂横行 兩側懸垂移行 懸垂屈膝擧股 懸垂擧脚御懸上			臂側上擧々踵半屈膝（直立）擧脚左右轉

均		背		
二	三	一	二	三
		(手腰)		
二	三	一	二	三
足尖行進			體前屈 手腰開脚直立 手胸開脚直立 手腰直立	
二	三	一	二	三
屈膝舉股 手腰直立 徐步 手腰直立 手胸直立		(手頸) 體前屈 (手胸直立)	體前屈 手腰閉足直立 手胸閉足直立	
二	三	一	二	三
平均臺上徐步行進 (臂側伸) (手腰直立) 幇助法 共助法 單獨法		體前屈 (屈臂開脚) (屈臂直立) (屈臂閉足)	體前屈 臂前屈開脚 直立 臂前屈閉足 直立	
二	三		二	三
(手胸直立) 脚後舉 手腰直立 手胸直立 舉踵屈膝 手腰直立 手胸直立 滑臺滑下 手腰臂左右舉			體前屈 手頸開脚直立 閉足直立 屈膝體前倒 手腰足斜出 手胸直立 屈臂 直立	
一	二	三	一	二	三
(手腰直立) 臂側上舉々 踵屈膝 (直立) 平均臺上屈膝行進 臂側伸 手腰 直立 平均臺上屈膝舉股行進			體前屈 (臂上伸開脚直立) (閉足直立) 屈膝足斜出體前倒 屈臂直立 手頸	體前屈 (臂側開) 臂前屈開脚直立 閉足直立 (屈臂臂上伸)	

腹			軀			側		
			一	二	三			
			(體左右轉)	(手胸閉足立) 全直立				
一	二	三	一	二	三			
(上體後屈)			體左右轉 屈臂閉足直立 全直立					
一	二	三	一	二	三			
(屈膝舉股)			體左右屈 手胸開脚直立 全直立	上體左右屈 臂前屈開脚 直立 手頭上直立 手頭上開脚 直立				
一	二	三	一	二	三			
脚前振)	體後倒 腰掛足助木 支持 手腰掛、固定 圓木、腰掛足 支持(助手)		體左右轉 手胸開脚直立 屈臂全	體左右屈 屈臂開脚直立 上體左右屈 手胸開脚直立	上體左右轉 (手胸足斜出) 體左屈右 (臂屈直立) 上體左右屈 (手頸直立)			
一	二	三	一	二	三			
體後倒 手腹腰掛足 前伸(助手又ハ助木支持) 手腰全前 手胸全前	腰掛上臂立伏 臥臂屈伸		體左右轉 臂前屈開脚 直立 手腰開脚直立	體左右屈 臂前屈開脚 直立	體左右轉 手胸足前出 直立 屈臂全直立 上體左右屈 片手上片手 下開脚直 全直立	體左右轉 臂前屈足前 出直立		
一	二	三	一	二	三			
體後倒 屈臂腰掛 足前伸(助手又ハ助木支持) 臂前屈全前 手頸全前	腰掛上臂立伏 臥臂屈伸		體左右轉 手頸鞍狀腰掛	體左右屈 手頸開脚直立 上體差右屈 手頸片脚助木支持	體左右轉 (手胸片脚助木支持) 體側倒 屈膝體側倒 手胸足側出			

教練及遊戯教材配當一覽

	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
隊ヲ着ケ休メ	番號（順數）	踏ミカヘ縱隊行進	行進間廻レ右駈歩間廻レ右	斜行進右向ク止レ	側面縱隊ヨリ横隊	
跳躍	一（競足遊戯）（駈歩）	一（駈歩足踏）	一 前方跳躍（手腰直立） 二 臂前振前方跳躍	一 手頸仝前手胸鞍秋腰掛 臂上振其場轉向跳躍 前進轉向跳躍	一 膝立跳上跳下 横跳上跳下	
呼吸	一 臂側擧（直立） 二 三	一 頭後屈（手胸直立手腰直立） 二 掌外及頭後屈（直立） 三	一 臂側擧々躍 臂側擧及頭後屈（直立） 二 三	一 臂前上擧前下（直立） 二 臂側上擧側下（直立） 三	一 臂前上擧側下 二 三	一 臂前擧側下擧躍（直立） 二 三
	一	一 開閉脚其場跳躍（手腰開脚擧踵直立） 二 三	一 其場跳躍（手腰直立） 二 臂側振其場跳躍（直立） 三	一 前進跳躍 一歩 三歩 五歩 手腰直立 臂側振其場轉向跳躍（直立） 二 三	一 ●高跳 ●跳下 跳上、跳下 ●斜高跳 滑臺駈登駈降 二 三	一 ●開（閉）脚横跳 ●斜振跳 ●横振跳 二 三

集レ	（二列縱隊）	牛右（左）向集レ	（四列）左向ケ止レ行進間廻レ右横隊行進駈歩	行進間伍ノ重複及分解	駈歩ヲ以テ行フ諸運動
番号ヲ解レ	番号（一、二）整頓	廻レ右整頓	停止間ヨリ駈歩 行進間ヨリ駈歩 駈歩足踏ミリ停止 駈歩ヨリ速歩		
右（左）向ケ縱隊行進	（前ヘ準ヘ）右（左）準ヘ	停止間伍ノ重複及分解			
停止足踏	（一、列二列）足踏				
足踏ヨリ停止 足踏ヨリ行進 行進ヨリ足踏					
伍々右（左）間隔及距離開閉					
盲目鬼カラカヒ鬼	子殖鬼	西洋鬼	蛙跳	バスケットボール	フットボール
猫ト鼠	場所取鬼	ボール合戰	片足競走	●川中島	メヤシンボール
徒歩競歩	場所換ヘ取	縄跳	棒引、棒押	●大將倒シ	單脚競走
旗取	片足相撲	デッドボール	千鳥競爭	布引	棒倒シ
旗送リ	俵送リ	ボール投ゲ	キヤビテンボール	軍艦遊	
ボールル送リ	對列フットボール	二人三脚	センターボール		
帽子取	綱引	人送リ	●相撲		
球入レ	輪抜ケ	負籠	障害物競走		
達磨落		鉢卷取	平均破		
桃太郎、渦卷池ノ鯉等		龍ノ玉取			
		寶取リ			
		大將砲擊			
		輪廻シ			

備考

一、各學年ニ於テ配當ハ新ニ授教スベキ事項ノミヲ掲ゲタリ

一、○印アルハ男兒ノミノ教材ヲ示ス

大正年月

教練教材各學年配當表

一年 一學期	一年 二學期	一年 三學期	二年 一學期	二年 二學期	二年 三學期	三年 一學期	三年 二學期	三年 三學期	四年 一學期	四年 二學期	五年 三	六年
氣ヲツケ	休メ	右(左)向ケ	半右(左)向ケ	廻レ右	足踏ミ	速歩	徐歩	斜行進	廻右	右(左)向ケ	踏換ヘ	
一、掌ヲ股ニツケヲ正シ膝ヲ伸ハス一、動ク前ニ向フ	一、左脚ヲ出ス一、位置ヲカヘ	一、上體ヲ正シクシテ向ク一、手ヲ股ニツケテ	一、上體ヲ正シクシテ一、右足ヲ少シ上ゲテ左足尖ヲ向ケムク		一、歩調ヲ揃ヘル一、手ヲ揃ヘフル	一、歩調ヲ揃ヘル一、左足ヲ踏ミ出ス	一、頭ヲ真直ニ上グル一、足ヲ正シクスル	一、上體ヲ正シヲ揃ヘル一、左右ヲ揃ヘル	一、着眼点ヲ正シクスル一、足尖ヲ揃ヘル	一、正シキ要領ニテ		
一、頭ヲ膝ヲ伸ハス一、動カヌコト廿秒					一、樂ニ歩ム	一、歩調ヲ揃ヘル	一、足尖ヲ行進ニ	一、着眼点ヲ正シクスル	一、廻レ右ヲ前ヘ			
一、口ヲ閉ヂ眼ヲ開ク	一、話ヲセヌ	一、上體ヲ正シクシテ		一、二擧一動ニテ廻ルコト	一、足ヲ正シクアグル	一、歩幅及速サハ速ク歩ニ準ス						
一、脊柱ヲ正シク腰ヲ視ル一、腰椎ヲカヌ三十秒		右ノ踵デ向ク		一、雨ニ踵ヲ廻ルコト	一、踏ミ伸ハス膝ヲ		一、靜カニ歩ム					
一、前方ヲ直チニ向ク一、足ハ必ズ原位置ニオク	一、各種ノ休メ	一、精練	一、精練	一、手ヲ膝ヲ伸シテ	一、足踏間ノ右(左)ムク		一、着眼点ヲ正シクスル	一、精練				
一、兩足ヲ六十度ニヒラク	一、精練			一、右足ヲ引キ正シクグラ	一、強弱緩急		一、廻レ右ヲ前ヘ					
一、生氣アラシム一、動カヌ四十秒				一、精練	一、精練							
一、以後ハ精練												
						一、精練						

行進間ノ諸運												
速歩	徐歩	斜行進	廻右	右(左)向ケ	踏換ヘ							
一、歩調ヲ揃ヘル一、手ヲフミ出ス												
一、左足ヲ踏ミ出ス												
一、頭ヲ真直ニ上グル一、足ヲ正シクスル												
一、上體ヲ正シヲ揃ヘル一、左右ヲ揃ヘル												
一、着眼点ヲ正シクスル一、足尖ヲ揃ヘル												
一、直進ス一、膝ヲ伸ハシテ												
一、體重ヲ踏ミツケタ足ニウツシテ行												
一、緩急自由ニ												
一、精練												
一、足尖ヲ角ニテ度正シク												
一、精練												
一、精練	一、精練	一、精練	一、精練	一、精練	一、精練							
一、精練												
一、精練												
一、精練												
一、精練												

| 動 | | |

間ノ諸連動						
駈足踏	駈足足踏足止レ	駈歩ヨリ速歩	廻前右へ	其他	秒數	歩幅
一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一
一、練習	一、練習	一、練習	一	一	一	一
一、精練	一、精練	一	一、練習	一	一	一
一	一	一、精練	一、精練	一	一	一
一	一	一	一	一、精練	一	一

教授の實際

二時間餘に亘りて尋五以下各學年女兒童の体操實習を視る、体操器械は始業前に整然排置せられ教師は何れも女子にして体操服を着用せるあり袴を短く括りたるあり兒童は尋二以上は全部体操服を着けて紅白二組に分れ各級三十分宛實習す其の動作の敏捷なる姿勢歩調の見事なる遊戯及器械の使用に熟せる一教程を終る間殆んど休憩なくして而も疲勞倦怠の色なく實に優良校たる面目を發揮せり、其の教程は準備、矯正向上整理の諸運動を合理的に配合し主運動には準備整理運動を適宜按排し又諸種の競技を組入れて兒童の心氣を新にせんことに務む教師の態度は何れも快活にして兒童の取扱に熟し大聲叱呼するが如きことなく巧に呼子を利用して兒童を活動せしめ兒

童は体操に就て多大の趣味を有し快活元氣にして自覺的に終始全力活動をなし諸運動より要領に叶ひ規律正しく參觀者をして覺えず快哉を叫ばしむ午前十一時二十分校長以下に好意を謝し別れを告げて生活改造博覽會に向ふ

（以下次號）

◎兵事

□大正九年一年志願兵

阿武郡に於ける本年一年志願兵入營者人名左記の如し

所屬部隊	住所	氏名
歩兵第四十二聯隊	紫福村	岩武滋義
仝	德佐村	長峰義章
仝	萩町	長嶺元二郎
仝	仝	井町敏正
仝	仝	室屋幾二
仝	仝	武林治朗
仝	椿郷東分村	羽鳥經雄
仝	須佐村	栗栖公三
野砲兵第五聯隊	福川村	中村周郎
歩兵第七十一聯隊	佐々並村	村田帶雲
仝	小川村	小川千里
歩兵第十一聯隊	萩町	清水清

他師團服役者

所屬師團	兵種	住所	氏名
第一師團	歩兵	萩町	齊藤四郎
仝	仝	仝	阿武芳輔
仝	仝	仝	山下靖信
仝	仝	仝	永田精三
近衛師團	鐵道隊兵	仝	竹内基雄
仝	電信	仝	周田豊
第四師團	歩兵	須佐村	栗山忠雄
第十師團	歩兵	萩町	吉田六郎
第十二師團	重砲	山田村	山本義男
仝	歩兵	椿村	林美樹多

□麥作保証栽培

阿武郡に於ては稻作同樣左記各項に依り麥保証付多收作模範田を設置せり

一、麥作保証栽培擔當者に對しては手當として一ヶ所

金拾圓を交付す但し作付は一反歩以上なること

一、保証すべき數量は左記の如くにして右保証額に達せさる場合は不足額に對する金額を支給す但し天災病蟲害等により減收を來せる場合は郡村吏員並に地方當業者立會の許に其の地方に於ける減收歩合を査定し保証額より其の歩合を減したる高を保證高とす

一、收量調査は坪刈の方法に依り定む

一、保證額に對し支給すへき價格は山口に於ける大正十年六月中の平均價格とす

一、擔當者にして郡の設計指示に從はさる時は保證を取消し又は減額することあるへし

麥多收作模範田設置狀況

位置	擔當者	反別	保證額	從來反當數量	增收額	增收歩合
山田村奥玉江	來島谷藏	一反歩	二石八〇〇	一石四〇〇	一石四〇〇	二十割
椿村沖原	國守倉之進	一反歩	二、八〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二十割
德佐村水戸	正木義人	一反歩	二、四〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	二十割
大井村本郷	山本菊次郎	一反歩	二、八〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二十割
佐々並村犬鳴	田村美助	一反歩	二、八〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二十割
福川村梅	世良茂作	一反歩	二、五〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	二十割
吉部村鐺倉	藤村眞熊	一反二畝歩	二、四〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	二十割
田萬崎村六郷	增野守三	一反一畝十五歩	二、八〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二十割
奈古村宇久	小田龜五郎	一反歩	二、八〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二十割
須佐村北谷	仁保福槌	一反歩	二、四〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	二十割

□乾柿講習會

郡内福賀、彌富、小川、田万崎、須佐、宇田郷の北部六ヶ村に於ては去る六月須佐村に開催の北部六ヶ村勸業主任集會の席上關係村より熱心なる希望ありたるに依り十月二十七日彌富村、同二十八日小川村、同二十九日須佐村の順序を以て本縣農事試驗場富海出張所主任工藤技手を聘し乾柿講習會を開催せるか其の講習の要項左の如し

▼乾柿製造法

一、品種選定の要項

可成果形大にして長味を帶ひ纖纏密にして水分少く種子又少きを可とす

一、現今の良種

堂上峰屋、稻山、祇園坊、富士等詳細は説明に讓る

一、採取の時期

十月下旬—十一月十日より中旬一、二回の降霜を受けしむること

早きに失せば製品黑色を帶ひ色澤不良なり

一、採取の適度

柿葉紅變し落葉を治め生柿百個に付き五個位熟柿となる位のとき果實又紅黃色をなしたるとき熟度進みたるものはと製品佳良なり

一、剝皮のこと

柿は採取せば三四日以上丁寧に貯藏し然る後成熟の進みたるものより剝皮す直に剝皮せるものは澁淨きて製品不良より皮の剝方密を充分取り去り皮を殘さぬ樣又厚薄の差なき樣剝皮を行ふこと

一、選果

大中小と果實を區別し熟度を異にするものは又區別するを可とす

一、乾燥場の設備

大小は其數量に依り之を定む但し南に向はしめ北透すを可とす、小數なれば軒下を利用すべし

一、乾方

小繩を五六尺に切り輪形に結ひて二寸置き一個宛挿み一連二十個至乃二十五個を挿む方法は種々あるも(口傳に讓る)

一、手入

乾燥は七日毎に連又は柿の方向を變し日當りを可良にし一樣に日光に當つべし

大果は二十日、中果は十四五日、小果は十日位經過せば「心切」と稱し柿を徐々に揉み心を解くこと必要なり

大果は一時に揉まず下部を先きに揉み次に上部に移るを可とす、二、三四日せば揉み直しを行ひ柿を少し扁平に爲すべし但し以上の手入は最も必要にして如斯せば速に乾き蒂部より腐敗して落下し果色黒變或は黴を生する恐れなし大果を困難とするは心切を行はざる爲なり

一、寢せ込み

乾柿の白粉は柿の醗酵により糖分の吹き出したるものである故に醗酵作用を行ふときは速に白粉を附着するものである即ち寢せ込みを行へばよい其の方法は大果三十日中果二十日もせば一通り乾く故乾柿を繩より外し南側の座敷に清潔な蓆を敷き之に前年の稻藁を一本併べに置き此の上に乾柿を併べ大果一重小果二重を立て掛くるを可斯くして更に一枚の蓆を覆ひ二三日置き醗酵せしむるものである又箱に藁を敷き柿を併べ上に藁を併べ一二層堆積み南向の暖なるところに置き二三日置き後柿を改め柿に濕めを見ば朝の九時より午後四時迄陽光に當て日中一回裏返しを行ふときは見る内に白粉現はれ乾燥二三日にして白粉よく附着す苦し不充分なれば尙ほ寢せ込みて前の如く行ふて可とす

以上の剝皮は心切と寢せ込みとは晴天打續くときを見計ひ行ふを要す然らざれば製品不良となり意外の失敗を招くことあり

一、貯藏

如斯くに柿の白粉出れば深さ一寸五分長さ二尺幅一尺の木製箱に稻藁を併べ之れに一、二重に積み重ね貯藏に着手す

貯藏中は當分時々檢査を行ひ温氣あれば蔭乾を行ふ苦し油斷せば白粉褐色に變し又黴を生することあり充分注意すべし

産地にては大寒中一夜寒氣に暴し置くと云ふ兎に角乾燥過度なれば堅くなり不足せば黴生ず

乾柿は正月の前後年末年頭の贈答品に需要多し可成早く賣り出す方可なり貯藏は梅雨期に入れば困難なり。

一、製品

生柿の一貫匁は乾上は二割乃至二割七八分止柿の品種と乾燥の程度により一定せず

一、乾燥程度と貯藏期間

一月下旬　生果の　三分の一止り

四月迄　仝　四分の一止り

七月以後迄　仝　五分の一止り

一、諸試驗成績

完熟柿一貫目仕立、二百七十匁、三十三日を要す

未熟柿同上仕立、二百匁四十日を要す

品種	剝皮	第一回心切寢せ込み	乾上げ	日數	製品
西條	十月三十日	十一月十二日	十一月十九日	十一月二十五日	二七日	良
富士	十一月五日	十一月二十日	十一月二十六日	十二月二十日	四十六日	稍々良
蜂屋	十一月十日	十一月二十六日	十二月十日	十二月二十日	四十二日	良
祇園坊	十一月十六日	十二月十日	十二月二十日	十二月三十一日	四十六日	最良
ロクセンジ	十一月廿二日	十二月五日	十二月十日	十二月二十三日	三十一日	良

□農事視察報告（其の二）

阿武郡產業技手　山時隆信

▼群馬縣駒崎村の大麥九石實收の狀況

去る八月一日より八月十四日迄二週間農業大學に於る夏季講習會へ出席し其の序を以て、群馬縣群馬郡駒崎村の麥作栽培方法を調査したるに大ひに當業者の參考たるべきを信したるを以て其の概況を報告すべし

昨年縣農會多收共進會に於て厚狹町倉重卷三郎氏は裸麥五石の大增收を示され本年に於ては末武南清村の水重平氏は更にレコードを昇し、五石八斗の實收を得たのである、五石以上の麥作普通農家に採りては得も想像十分ならず其間、猜疑疑惑の心念も相當禁じられないである而し乍ら一見は百聞に如かず目の當り其生育振を調査し土地に會ひ擔當者の說明を聞かせらるに及んでは凡ての疑ひも解け改善の余地前途遼遠なるを益々思はしめるのである、而るに香川縣香川郡弦打村唐渡福太郎氏は一反當り七石六斗の數字を得て居る、更に各種の通信は群馬縣群馬郡駒崎村大字大久保村の青年會は戊申詔書の御旨意を奉戴して振農會なるものを組織し相提携して農事に精勵したる結果既に大麥にせよ十石十二石の大增收を得、遠近より視察者多大なりと大麥にせよ、本郡の如き東部北部地方の三俵四俵、西部地方の五俵六俵に較ぶれば實に五倍本縣多收穫者の數字に比して尙二倍今回幸にして其土地を目擊し地方人に遇ひ各種先進の栽培方法を敎示されたのである

抑も大久保村附近一帶の土地は養蚕が頗る盛に行はれ眼の屆く限りは桑畑又桑畑養蚕の本場とはこんなものかと首肯させられる而して其の耕地の大半の桑に奪はれた

結果成るべく小面積より米麥の多收と云ふことに非常に努力されたのである

所が隣郡の勢多郡芳賀村大字小神明に於ては數年前より埼玉縣の老農權田愛三翁の發明したる權田式麥作法を習得し來り年々多額の增收を得つゝあることを聞き振農會の青年二人を同村角田金十郎氏方に派遣し實地に就て習はしめ去る四十二年の秋蒔付の際三畝歩の土地に始めて之を試みたるに翌年初夏に至り反當り七石余と云ふ同村に於ける未曾有の增收を得て大ひに村民の注目を曳き翌年は同村の老農永田民八氏が之を試みたるに更に好成績を得て坪刈の計算十一石四斗を收穫し四十五年（大正元年）は二反六畝歩に試みて十七石五斗の實收を得るに至れて振農會に於ても愈々正式に試作を行ふことゝなり大正二年の秋四畝十六歩の同會試驗地に此の權田式麥作法を行ひ翌年六月八日刈取りの結果三石八斗の實收を得た是れを一反歩に換算する時は九石の實收となるので會員一同次年は一反歩十石の收穫を擧げんと奮鬪努力し其の生育頗る良好の處大正三年は麥の登熟期に際し一般に冷氣に襲はれたるため思はしき數字を得ることは出來なかつたが其後遂に一同の熱心篤農家の苦心は十石の段當實收を得然も今日では共に大久保村に於て斯る大增收を得たるのみならず群馬縣各所に於ても實現されつゝあるの好況に至たのである

十石十二石又九石としても其の年の天氣具合栽培法一面からは算盤玉の彈き方で二石や三石は大負けした所で何れにしても一反歩七石乃至九石と曰ふ一寸御互の常識では判斷が難かしい大增收である權田式の本家本元たる權田愛三氏ですら四石五石の數量しか得てゐないに何故かゝる大增收の出來たか同村に於ては自ら大久保式麥作法と稱し大体は權田式に採り土人の方法と施肥法に一段の研究を重ね勞費の大を厭ふことなく大々的集約栽培を行ひあるの結果である

此大々的の集約栽培を行ふには先つ以て種類選擇が必要である何しろ一反歩に對して大豆粕、アンモニア、過燐酸骨粉等の金肥を三十圓も施し其の外に堆肥四百貫人糞尿三駄木灰五十貫と曰ふ大分の量肥料を追かけ引かけ施すのであるから普通に同地方で用ひられてゐる關取豐年五畝四石半其等の種類にては稈許りひよろ〳〵と伸びいざ結實期に入ると皆倒してしもう附近の農民中同式を行ふものもあつたが皆失敗した依て此式の栽培用としては水晶か用ひられてゐる水晶は川越在の金崎と云ふ處から輸入した種類で一名チビと呼ぶ稈の丈二尺以上に伸び又短く太く而して硬い種類である此水晶と云ふ大麥が大久保式栽培法に依て稈の丈が三尺五寸から四尺位に迄伸びると云ふことから一班が窺へる

尙同縣農事試驗場より優良原種大麥として配布されつゝある品種の特性を記せば

品種名	早中晩	出穗	成熟	莖數	稈長	粒付粗密	芒	品質	反當收量
備前早生	中	五月三日	六月一六日	一〇本六	三八九〇	普通	半芒	上	四五七六八
白麥	中	五、八	六、一五	一三、二	三、七八	普通	長芒	上	四四九八
半芒	早	四、三〇	六、二三	一二、八	三、四〇	普通	半芒	上	五、〇七四
竹林	中	五、七	六、一八	一一、四	二、五七	密	中芒	中	四、七六九
關取田三號	中	五、五	六、一四	一二、〇	二七、一	密	中芒	中	五、一九〇
關取田六號	中	五、七	六、一四	一〇、六	二、四七	密	中芒	中	五、〇八八
關取久九號	中	五、五	六、一四	八、二	二、四四	普通	中芒	中	五、〇五三

權田式の麥作法では畦市二尺五寸之を東西に切ると定まつたもので土を株間に打込む肥料を多く施す外同じ一反歩にても空地を成るべく少くして植付面積を增加することも增收の一原因である大久保村でも其の通りにやつてゐるが收穫當時の如きは畑一面麥の穗でつまり一種壯觀を呈す横井同郡農會技師の試みに一平方面積の穗を取て數ふるに百二十穗あり三石内外の畑にして一平方尺三十八穗を普通とすべしと

大久保式栽培の大要

權田式麥作にありては十月十五日より同月末日迄に播種し收穫は蒔付より二百二十日前後即ち五月下旬乃至六月上旬に行ふ早蒔早刈主義を大久保式麥作に於ても此の原則を確守し蒔付は十月一ばい

播種、地均して次に畦の深さ凡そ四五寸位とし畦の方向は東西を可とす畦の立方終らば堆肥を反當り三百貫—四百貫を畦巾に厚薄なく敷き込み其の上に配合金肥を散布し土を土入鋤簾にて堆肥の隱るる位薄く掩ひ七寸巾の撞木にて其上を平て均らし人糞尿を五倍に稀薄せしものを一畝二荷—三荷施す斯くして一畝二合—四合見當に二條七寸巾麥種子を落し土入鋤簾にて種子の見へさる程度に成る可く薄く土を掩ひ其の上畦と反別の方向に足にて叮嚀に踏み付く

土入の期日

第一回	登芽三葉頃	三四分
第二回	冬至前後	六七分
第三回	二月中旬	六七分
第四回	三月中旬	八九分
第五回	四月上旬	一寸五分以上

第六回　四月中旬　三寸以上

追肥

第一回　冬至前　水肥

第二回　二月上旬　水肥

第三回　二月中旬　配合金肥

第四回　三月　旬　水肥

土入は降雨前に行ふを可とし追肥は土入前に行ふを良しとす水肥にては施肥一日の後土入れを行ふ

右大久保式麥作法に對照して同縣農事試驗場の栽培標準を示せば

一、整地、播種前土地を深く且つ懇切に耕鋤し十分乾燥するを待ちて土塊を叮嚀に碎き地均らしをなす

一、選種先づ篩選を行ひて小粒を去り然る後大麥は一、一三の比重小麥一、二三の比重に塩水選を行ふ

一、病害豫防、麥奴幷に葉病豫防の目的にて冷水温湯浸法を行ふ

一、肥料

種類	反當施用量	窒素	燐酸	加里
堆肥	二〇〇貫	一貫五〇〇	〇貫七二〇	一貫二〇〇
大豆粕	一〇	〇、六三六	〇、一四〇	〇、二〇〇
人糞尿	五四	〇、四八〇	〇、二〇二	〇、一八九
強過燐酸石灰	五		一、〇二八	—
木灰	一〇		一〇、二二八	〇、七九八
計		二、六一六	二、三一八	二、三八七

右肥料中堆肥大豆粕強過燐酸石灰木灰は含量を原肥に施し人糞尿は之を三等分し元肥及十二月二月の三回に分施す

一、播種

イ、畦巾　畦の方向は東西にして畦巾は二尺

ロ、時期　十月上中旬

ハ、反當播種量　大麥二升小麥一升五合位

ニ、方法　鍬にて播條を四寸位の深さに切り元肥を施したる後薄く覆土し之に二列一粒播（列間巨離四寸粒間三寸の互の目播）とし更に五分一寸の厚さに覆土し土壌の干燥を待ちて踏壓をなす

一、中耕　普通三回にして第一回は十二月に於て日向中耕を第二回は二月にして同しく日向中耕をなし第三回は三月に於て日除中耕をなす

一、踏壓　十二月一月二月の三回踏壓をなし尙ほ乾燥の度合により回數を增加す

一、土入　冬季は中耕の際自然に土の播條に入るを以て土入の必要なきも若し徒長の虞ある場合は殊

更に土入を行ふ而して四月に至り麥の生育狀況により二回乃至三回の土入を行ふ

一、收穫　過熟及早熟を避け黃熟期卽穗着の黃熟したる時刈取り數日間稈付の儘干燥せしめ後熟せしめたる後脫穀調製をなす

抑も麥を多收するの方法は莖葉の密接を避け出來得る丈け多量の光線に浴せしめ以て同化作用を十分ならしめると同時に莖稈を强剛にして根の彌漫を自由ならしめ成るたけ多量の根が長く土壤の下層に浸入し得る樣にするにあり

然るに麥の收穫を增加するに單に肥料の增施によりてのみ足るの考を有するの者多し夫れは大なる間違である元より肥料は必要にして麥の莖葉や種子中の含窒素有機物となつて蛋白質とかアマイドを作り又細胞の原形質卽ち麥生活力の根源を作るの材料となる然るに吾人の食料の大部分たる實の澱粉又は纖維質の如き炭水化物は空中より葉の氣孔を通して來る炭酸瓦斯を日光の力に依り葉の葉綠素にて酸素は散出され炭素を殘し之れと地中から根によつて吸ひ取た水と合して卽ち同化作用によつて生したるものにして直接吾人の施した肥料で出來たのではない

凡そ生物として直接間接に日光を受けて生育しないものはない此の日光を受くることの多少が其の生物の消長盛衰の根源となるものである日光が麥の生活に對して關係のあるのは同化作用との關係が主たるもので此の同化作用を起すは必要なる葉綠の生成は日光の力であつて若し日光に遇はない時は葉綠は生することはない葉綠を有するものも暗い所に永く置くと段々消失して白くなるが再び光線に當てると又葉綠が出來る而して此の葉綠の出來るに日光を受くるの强弱によりて相違がある光線は一緒に纏てゐると白色であるが一体は熱線と白光線と化學線と×光線と四種から出來てる其内を葉綠を拵へたり澱粉を作るのは白光線で此を分解すると七通りの色をして光線となる赤橙黃綠青藍紫の中で同化作用に効力あるものは赤橙黃の三色である他の綠青藍紫の四色は晝間莖の成長を遲くして硬角組織硬膜纖維木質纖維などの細胞膜を厚くし斯くして莖稈を强剛にする是れに依て考へると麥莖葉をして十分に空氣に觸て炭酸瓦斯を取り易くし同時に十分に葉面を日光に曝して炭酸瓦斯の分解と同化を行ふも同時に地面を温め根をして土壤の下層へ長く瀰漫させて下層の營養分を取らせ又健全ならしむる時は斯く一反當九石以上の實收を得らるべきである

一反歩から九石の實收を得ると云ふ事は一寸信し難いのであるけれ共決してさうではない若し蒔付た種子が滿足に生長して之れを少しも無駄にしないで拾得するとしたならば幾何の收量を得らるかを計算して見ると九石は愚か十二石も採れねばならぬと云ふ事が會得されるのである

麥種子一粒は幾本に分蘗するかと云ふに本縣農事試驗場調査に據れば

裸麥として　富田十五本　小鯖十四本　大内十四本
　小珍好十六本　豐年十六本　コビンカタギ十五本
大麥として　仁保十九本　辨慶十七本　三月入獨乙春蒔十五本　改良大麥十七本である

極く少く見積ても五本から十本にはなる

又一穗粒數を香川縣に於る優良品種に就て調ふるに

紅梅　六十二粒　景清　五十九粒　竹下六　十九粒
白珍子　五十七粒　早麥　五十七粒　播磨チンコ六十七粒
屋根裸　六十七粒　旭裸　六十粒　八石　六十二粒

本縣に於る農事試驗場配布品種に就て見るも五十粒―六十粒以上になつてゐる

少く見積て一粒に分蘗し一穗に四十粒とすると一粒は二百粒になる昔から百姓百層倍と云ふけれ共二百層倍になつゐる

麥種子一升粒數は

小珍好　五〇、四三〇　富田、小鯖　三九、五一〇
コビンカタギ四六、九七〇　薄皮　五〇、〇一〇
三島　五四、三九〇
大麥として
仁保　一四、二四〇　辨慶　一七、二七〇
坊主　一六、五一〇　ゴールデンメロン　一一、二八〇

今小珍好に就て見るに一升粒數五萬あるを以て一粒あり二百粒になるとして二百五十粒で五萬粒即一升となる一升麥種子によりて二石の收穫が得られる一反に四升の下種により八石の收穫を得らる然るに勘定合て錢足らず計算と實際とは符號しない是れには理由のあることで蒔いて生へた麥が分蘗して結んだ種子の中に成熟しないものがあるのと畑に於て雨風の爲に無駄になるのと鳥や蟲に害されるのと種粒の充實しないものなど色々の故障が集り來て勘定通りの收穫が得られないのである

當業者各位の此の点を洞察し栽培法に學理を應用して天則に從つたならば九石の實收を得ること必ずしも無望ではない各位の一歩たり共此の高に接近したる收穫を得ら

れんことを

▼動力利用の農具に就て

農村勞力の不足に依て來る勞銀の騰貴は益々急にして將來は從來の如き農具を以てしては到底其れが補足をなす可らざるに至るべし之が對應策としては人力に代ふべき他の有効動力卽ち小型熱氣機關及畜力の利用に俟たさるべからず農商務省にては思を茲に致し之が利用試驗を愛知縣農事試驗場に命じたるを以て同場にては大正八年十月之れが試驗準備に着手し第一期公開試驗を九年一月實施し好成績を得第二期公開試驗を六月に於てし第三期公開試驗を本年稻收穫期に於て施行せんとするものなり去る八月同場に於て之が試驗研究をなしたるを以て其の概況を記すべし

熱氣機關及畜力機各種特質要項

一、石油發動機

本機利用の馬力は公稱二馬力内外のものにして其の使用法に就ては危險の恐なけれ共最初其の取扱者に對し相當の熟練をあさしひるの要あると重量稍大にして且水冷式なるを以て木槽を裝置せさる可らさるの煩わる等其の運搬に勞力を要すること多少大あるの嫌なきにあらす然れ共之れを移動式として野外に使用するに當りては差して困難なく何地へも自由に運搬することを得可く其の特長とする所は下等の石油を使用するものなるを以て經費頗る小額にて足れると機械の構造極めて堅牢なるにあり

二、ガリンエンヂン

本機利用の馬力も同しく石油發動機と同樣に公稱二馬力内外のものにして本機は元來機体小にして場席を要すること大ならず且つ重量も輕く取扱頗る容易にして尙速度の調節等任意なるを得て運轉は殊に輕妙使用者に殆んど熟練を要せずして得べく移動式動力としては實に理想的なるものと稱するを得可し然れ共使用する所のガチリンの不廉なる關係上石油發動機等に比し運轉に要する經費比較的大なるを見るガソリンの消費量に就てはエンヂンの調節法如何により多少減少するを得べく尙當場に於ける試驗の結果ガソリンエンヂンに向てガソリン一、輕油一の割合を以て混合使用するも運轉に支障なく經濟的なり

三、畜　力　機

本機は牛馬を使用して動力を起さしひる樣構成したる一種の原動機の意にして其の能率は牛馬の体量の多少により相違あるも概して其の現出する力は二分の一馬

力内外にして其の形式は半固定式よりなる所の構造の簡單なるものにして分解して保管するの便利を有するものにして牛馬を飼養する一般農家にありては最も有益にして適切なる原動機なり

利用農具試驗成績概要

一、脱穀機

本機は動力利用のものとして特に完全を期し設計製作せしめたるものにして其の用途は稻麥を初め其他凡百穀物等其の粒の細大を問はず粒子を損傷することなく精巧なる脱粒作用をなすものにして特別其の脱粒作用の困難なりと稱せらるゝ麥の如きも拔き落しと同時に直ちに下面に於て完全なる脱粒作用の行はるゝ便利を有し何れの場合にも藁芥は運轉中自然的に手許へ分離排出され粒子は下面金網に通じ還送裝置により前方に送り出され、落下の際下方に附裝しある扇車により風選せられ再び勞を要すること無き程度に其の穀粒は極めて完全に精選せられて出づる所の特殊の之等機關裝置を有し機構は實用的にして頗る堅牢なるものなり

左に其の成績を擧げ人力用機と比較せん

一時間の作業効程比較表　其の一、稻

名稱	動力別	作業人夫	脱粒量	扱落後の調製所要時間	摘要
廻轉式脱穀機	足踏	男一人	一石四五五	七分一六秒	比較標準
動力利用脱穀機其一	畜力	一	四、七六〇〇	—	牛一頭
同其二	ガソリンエンヂン一馬力	一	五、四四〇〇	—	ガソリン消費量三合五勺
同其三	同二馬力	二	一〇、八八〇〇	—	同五合
同其四	石油發動機二馬力	三	一三、六〇〇〇	—	石油消費量四合五勺

一時間作業動程比較表其ノ二裸麥

名稱	動力別	作業人夫	脱粒量	扱落後ノ調製所要時間	摘要
廻轉式脱穀機	足踏	男一人	一石〇〇五六	九分〇〇秒	比較標準
動力利用脱穀機其ノ一	畜力	一	三、〇三五〇	—	牛一頭
同其ノ二	ガソリンエンヂン一馬力	一	三、四八〇〇	—	ガソリン消費量三合五勺
同其三	同二馬力	二	六、九六〇〇	—	同五合
同其四	石油發動機二馬力	三	八、七〇〇〇	—	同四合五勺

一時間作業効程比較表其三大麥

名稱	動力別	作業人夫	脱粒量	扱落後ノ調製所要時間	摘要
廻轉式脱穀機	足踏	男一人	一石二九三二	三分一〇秒	比較標準
動力利用脱穀機其一	畜力	一	四、四一八四	—	牛一頭
同其二	ガソリンエンヂン一馬力	一	五、〇四九六	—	ガソリン消費量三合五勺
同其三	同二馬力	二	〇、〇九九二	—	同五合
同其四	石油發動機二馬力	三	二、六二四〇	—	石油消費量四合五勺

一時間作業効程比較表　其四小麥

名稱	動力別	作業人夫	脱粒量	扱落後ノ調製所要時間	摘要
廻轉式脱穀機	足踏	男一人	一石、三二〇〇	七分一六秒	比較標準
動力利用脱穀機其一	畜力	一	四、五〇六七	—	牛一頭
同其二	ガソリンエンヂン一馬力	一	五、一五〇〇	—	ガソリン消費量三合五勺
同其三	同二馬力	二	一〇、三〇〇〇	—	同五合
同其四	石油發動機一馬力	三	一二、九〇六四	—	石油消費量四合五勺

二、籾摺機

本機は下臼廻しにして二重漏斗式構造より成り歪齒輪の組合せにより臼は垂直に廻轉し調車を以て傳動運轉し尙上臼の荷重を增減すべき調節裝置を有す本機の下臼廻しとせる要は脱稈率を優良ならしむると運轉速度を增大せしめ作業効程を大ならしめん爲めにして上臼廻しの場合にありては遠心力作用のために妨害せられ急速度の廻轉を望むこと不可能に付本機構を採りたるものにして是れが臼の速度は一分間百乃至二百廻轉の急速度を以て廻轉することを得て然かも脱稈歩合は九〇%内外に達し加之碎米及胴傷を生すること極めて少く効程は普通人力用の土臼に比し五倍乃至十倍たるを得るものなり

尙ほ籾磨機に唐箕及萬石篩を連段し脱稈と同時に之れが精選作用を完全自働的たらしむるは必要事にして是が機構裝置に就ては目下試驗研究中に屬す

一時間作業効程比較表

名稱	所要人夫	籾磨量	玄米量	碎米量	脱稈歩合	臼一分間廻轉數	摘要
手廻用	男二人	二石〇〇〇〇	一石〇五八四	〇キロ〇五二	八八二四五	臼ノ直徑一尺八寸	
改良摺臼動力利用籾摺臼其一	一	一〇、三四四〇	五、四七四一	〇、二六〇	八八、二一〇〇	二一	尺
同其二	一	二〇、二〇〇〇	一〇、九五〇	〇、四四〇	八八、二二〇〇	二一	尺
同其三	一	二一、三七八〇	六、〇二一五	〇、二八六	八八、二一〇〇	二一	尺二寸
同其四	一	三三、三〇〇	一三、〇四五	〇、四八四	八八、二二〇〇	二一	尺二寸

備考　籾摺効程は臼摺面の大さ（臼の直徑）及廻轉速度の增減に殆んど正比例するものなり

動力機利用の範圍

小型移動式熱氣機關又は畜力機の利用により運轉し得る所の農用機械の種類の主なるものを擧ぐれば左の如し

イ、脱穀機　ヘ、精穀機
ロ、脱稈機　ト、精粉機麥割機
ハ、精選機　チ、藁打機製繩機
ニ、大豆粕削機　リ、澱粉製造機
ホ、灌漑排水用喞筒　ヌ、其他農產品加工用諸機械

尙小型熱氣機關を利用して田園の耕耘耕種用に利用することは勞力調節上極めて須要の事にして其方法に就ては目下試驗研究中なり

普及奬勵の方針

此種動力及畜力利用による農具の使用に就ては今後本郡食糧農產物增殖上勞力の節約を計る爲めには現在及將來其大ひに必要なるものなり之れが試驗事業は農商務省の施設として愛知縣農事試驗場へ指定せしは前述の通りにして試驗の結果成績大ひに見るべきものあり據りて之れが使用希望者に向ては本省並に當場に於て十分指導奬勵の便宜を與ふべきこととせり而して現時に於ける吾國農業にして動力機を利用するに最も適當にして有利確實の成績を擧げ得べきは左記の如し

一、多數の小作人を有する地主
一、數町歩の農場を經營する自作者
一、組合組織の許に共有として使用すること
一、一の請負事業として農家を巡廻作業すること

設計及製作所

目下商品として有する小型熱氣機關は凡て農業用として製作せしものに係るを以て當場に於て試用せし機關の如きも別に機械裝置を研究し改造使用せしものなり

故に今次是等小型農用熱氣機關の優良なるものの出現を見ん爲め目下大日本農會に於て本省補助の許に全國に渉り小型熱氣機關の懸賞募集を行ひ尙本省より直接米國へ注文せし各種機關に付目下研究中なり其他當場に於て考案設計し試驗濟にして目下特許申請中なる畜力機籾摺機脫穀機等の製造は當場に於て他の研究農具と共に名古屋市中區東古渡町名古屋機械製造株式會社に指定せしに付之れが希望者は當場又は會社に直接照會せられ度し尙機關の選定及動力利用農具に關する機構及傳動裝置等の設計に就ては當場に於て指導の便宜に與するの考に付希望者は其旨申出でらるべし（以下次號）

□萩、明木間四間幅改修縣道開通

本郡明木村字市の東端より右に分岐し川上村の一部を縫ひて松本川の左岸に浴ひ椿村金谷社頭に通する萩明木間四間幅改修縣道は延長二里二十五町にして林前本縣知事の達見に係り大正七八兩年度に於て縣費貳拾壹萬七千六百拾六圓餘を投じ外に關係三村及萩、榊鄕東分、山田三見、佐々並、福川、大井、奈古、六島の各町村より敷他買收費に參萬六千五百圓を寄附し大正七年八月十四日工

を起し本年十一月四日竣工を告げたるを以て明木、川上、椿三村聯合して本月十三日午前十時椿村金谷神社境內に於て盛大なる開通式を擧行せり齊主縣社椿八幡宮宮原社司及田村副齊主の奉仕にて壯嚴なる竣工祭を執行せられ岸椿村長式辭を朗讀し林前知事よりの祝電其の他來賓多數の祝詞あり而して來賓は縣知事代理城崎技師外約二百名にして式後椿西小學校に於て祝宴を開き餘興として餅撒、角力及活動寫眞等を催せり當日岡村郡長の祝辭左の如し

祝辭

交通機關ノ完備ハ產業竝ニ人文ノ發達ニ至大ノ關係ヲ有ス由來本郡ハ海陸共ニ物資ニ乏シカラスト雖モ其位置タルヤ縣內ノ北端僻陬ノ地ニ在リテ運輸交通ノ便ヲ缺キ利潤未タ普カラス從テ文化ノ發達ニ後ルルコト歲久シ茲ニ於テカ鐵道ノ開通ヲ渴望スルコト多年近時郡ノ東部僅カニ鐵路ノ便ヲ得ルニ至リタリト雖モ維新文化ノ泉源地タル萩附近ハ未タ其ノ施設ナク一面僅ニ海運ノ便アルノ外三方峰巒崎嶇トシテ連リ就中最要衝タル萩ヨリ小郡及山口ニ通スル縣道ニ鹿背坂ノ急峻アリテ所謂四峠內ハ勿論關係地方ノ不便不利蓋シ鮮少ナラサルモノアリ縣當局茲ニ見ルトコロアリテ之ヲ開發スヘク曩ニ美禰郡眞長田大田間ヲ幅員三間ニ擴張シ次テ大正七兩年度ニ於テ更ニ本郡萩明木間ノ路線ヲ變更シ大ニ將來ノ開發ヲ圖ルヘキ大策ヲ樹立シテ本道路改修ノ工ヲ起シ今ヤ其工事全ク成リ本日ヲ以テ開通シ正ニ發展ノ曙光ヲ放ツニ至ル欣喜祝福措ク能ハサルトコロナリ抑モ此工事タルヤ延長二里三千五丁幅員四間加フルニ嶮新ナル技巧ヲ盡シ坦々砥ノ如ク牢固拔クヘカラス實ニ縣內第一ノ道路ト謂フヲ得ヘシ從テ本道路ノ開通ハ地方ニ一新生面ヲ開キ文化ノ開發上甚大ナル成果ヲ齎ラシ將來般盛ノ基トナルヘキヲ信シ拾壹萬ノ郡民ト共ニ深ク縣當局竝縣政參與者ノ努力盡瘁ヲ感謝シ併セテ關係町村ノ協力ヲ多トスルモノナリ望ラクハ爾今本道路ノ開通ヲ機トシ益々其ノ活用ヲ圖ルト共ニ更ニ進ミテ鐵道ノ速成ニ一段ノ努力ヲ拂ヒ以テ文化ノ發達ヲ促進シ地方ノ振興ニ資センコトヲ一言以テ祝辭トナス

大正九年十一月十三日

山口縣阿武郡長從六位勳六等　岡村勇二

□民力涵養いろは歌（其ノ一）

「民力涵養」の事たる、至緊至要、正に戰後經營の第一義なり。誰か協心戮力、鋭意奏効を期せざるべからず。本歌は大阪府囑託永井貫一氏の作成に係はるもの茲に掲けて勸奬の資となす。

イ かならむ　いくさは愈終熄せりておこる平和のいくさをぞ思ふ

ロ んよりも證據あり〳〵ありし世の事列は實にも返すべらなり

ハ らからと　いふが内にも　肌の色に　彼と是との差別立てける

ニ し東洋のわなたと　思ひし間に空や一つの　世とぞなりける

ホ し一つれはつかなくも見ゆるよに　待たるゝものはあはれ日の影

ヘ い和實にうれしかりけり　さりながら　更にも勵めゆめを緩みそ

ト もゝに　心あはせて　國の爲世の爲に皆勵め生業

チ ばや振　神代をかがらに　動きなき國のをしへを守れ國民

リ にさとり　義には喩らぬ　世の中に　正しき御旗たつるさまはや

ヌ ば玉の　闇の世の中　照します　日の御影こそ嬉しかりけれ

ル ねを以て集まる友は　圓滿にも照せる月を心ともがな

ヲ さめてぞ　國は治まる　見渡せば　ともに領有嘆たてしの世界や

參考資料

一、町村立小學校尋常科兒童出席歩合表　十月分

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
立野	一〇〇、〇〇	九九、八七	九九、九四	一	一
宇田	九九、〇三	九九、三三	九九、九一八	二	二
椿西	九九、三一	九九、〇五	九九、一八	三	四
木間	九九、〇一	九九、二一	九九、一六	四	七
明木	九八、六二	九九、七一	九九、一四	五	五
半田	九八、三八	九八、七三	九八、五四	六	三三
佐々並	九八、九〇	九八、一七	九八、五一	七	一七
三見	九八、〇九	九七、七八	九七、九四	八	一六
福川	九八、一四	九七、六九	九七、九二	九	九
長高	九七、〇八	九九、五六	九七、八九	一〇	三
越ヶ濱	九七、八四	九七、七二	九七、七八	一一	八
篠生	九八、二二	九六、九〇	九七、五六	一二	二六
龜山	九六、九五	九七、七三	九七、三二	一三	一二
野戸呂	九七、八四	九六、五〇	九七、二二	一四	一三
鈴野川	九七、四一	九六、七八	九七、一一	一五	一一
嘉年	九八、四三	九五、六八	九七、〇六	一六	一四
見島	九七、六三	九六、四七	九七、〇六	一七	二四
大島	九七、八六	九六、二六	九六、九九	一八	二三

目次

一、町村立小學校尋常科兒童出席歩合表（十月分）……一
二、仝　高等科兒童出席歩合表（同　）……三
三、阿武郡產業組合狀況表（大正九年九月末現在）……五
四、阿武郡夏秋蠶狀況表（大正九年分）……八
五、阿武郡養蠶戶數表……八

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
多磨	九七、三三	九六、二八	九六、八三	一九	一五
高瀨	九七、一九	九六、三六	九六、八二	二〇	六
下川小	九六、八八	九七、一六	九六、七五	二一	二二
川上	九六、四三	九七、一四	九六、七三	二二	一〇
明倫	九七、〇一	九六、四四	九六、七三	二三	二〇
大井	九六、八二	九五、五四	九六、一五	二四	二八
高俣	九七、二三	九四、七八	九六、〇八	二五	三五
紫福	九六、二二	九五、六二	九五、九一	二六	一九
白水	九七、一八	九四、二九	九五、八八	二七	二七
奈古	九六、六六	九四、六七	九五、六八	二八	二一
育英	九五、一七	九六、〇一	九五、五七	二九	三〇
持坂	九六、三四	九四、二〇	九五、三三	三〇	三二
地福	九五、八三	九四、六四	九五、二四	三一	二五
福田	九五、三五	九五、〇七	九五、二二	三二	三一
椿東	九五、五二	九四、五三	九五、〇四	三三	三四
篠目	九五、一五	九四、二九	九四、七四	三四	二九
小川	九六、〇四	九三、一三	九四、六〇	三五	一八
德佐	九四、九五	九四、〇〇	九四、四八	三六	三八
彌富	九三、六六	九四、〇八	九三、八八	三七	三七
上小川	九二、四九	九一、〇八	九一、九〇	三八	三九

二、町村立小學校高等科兒童出席歩合表

十月分

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
嘉年	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一	一
明木	九九、七三	九八、九九	九九、四五	二	二
宇田	九九、二六	九八、九三	九九、一七	三	五
椿西	九八、八七	九九、四三	九九、一五	四	三
川上	九八、七六	九八、八五	九八、八〇	五	一五
明倫	九八、八一	九八、二一	九八、五三	六	七
彌富	九七、九八	一〇〇、〇〇	九八、四一	七	二一
育英	九八、一九	九八、五〇	九八、三一	八	一一
地福	九七、〇二	九八、六四	九七、五八	九	四
福田	九六、八六	九八、八六	九七、五二	一〇	一一
小川	七、六四	九六、五〇	九七、二八	一一	一四
藏目	九一、二六	九〇、四一	九〇、八九	三九	四〇
相島	九五、〇四	八五、二二	九〇、七四	四〇	三六
吉部	九一、三九	八七、一五	八九、二七	四一	四二
生雲	八八、三八	八四、〇〇	八六、一九	四二	四一
本月郡平均	九六、五二	九四、〇二	九六、二四	一	一
前月郡平均	九六、四〇	九五、五一	九五、九三	一	一

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
多麿	九七、一八	九七、〇一	九七、一二	一二	一七
白水	九七、三九	九六、五七	九七、〇一	一三	二〇
佐々並	九六、一六	九八、二七	九六、九九	一四	一九
紫福	九六、四三	九六、八〇	九六、五六	一五	一六
椿東	九五、一三	九八、一七	九六、四九	一六	二四
大井	九六、〇〇	九六、六二	九六、三二	一七	一八
奈古	九四、五九	九八、二五	九五、九三	一八	九
生雲	九三、一五	九七、二八	九四、九四	一九	八
德佐	九三、四三	九五、二三	九四、三三	二〇	二三
大島	九四、六五	九三、三三	九四、三二	二一	二六
三見	九三、八六	九四、一六	九四、〇一	二二	六
福川	九二、一四	九五、五二	九三、三四	二三	一三
高俣	九四、五六	九〇、〇〇	九三、三四	二四	二五
吉部	九二、四四	九二、〇六	九二、二五	二五	一〇
篠生	九一、八一	九一、三〇	九一、六三	二六	二二
見島	九一、四三	一〇〇、〇〇	八三、八六	二七	二七
本月郡平均	九五、七九	九六、九四	九六、三九	—	—
前月郡平均	九五、八八	九七、一九	六九、二三		

三、阿武郡産業組合狀況調査表 其ノ一

（大正九年九月末現在）

組合名	種目	現在組合員數	拂込濟出資額	準備金其他積立金	貯金	借入金	計
有、萩信用組合		四三二人	三、二九四、六六四	五、三八九、〇四四	二〇、〇八九、六五二	四二、〇〇〇	四八、〇二九、三六〇
仝、萩積善信用組合		三三六	四、七五五、〇七〇	一七五、四八九	三九、三二三、二五〇	八、〇〇〇、〇〇〇	五二、二五三、〇九
仝、萩夏蜜柑販購生組合		一八五	二、〇二八、〇〇〇	二、四八五、九九二	—	二、一六三、八七七	四、四一七、六六四
仝、北古萩信購販組合		八三	一、一〇〇、〇〇〇	二、七五、七八七	七、二九三、五一四	—	一〇、八七九、五〇六
仝、椿村信用組合		三八八	四、五三〇、〇〇〇	二、〇五二、二七三	一〇二、一八八、九四六	—	一〇八、七七一、二一九
無、山田村信購販組合		七〇	四〇六、〇〇〇	—	—	二、七一〇、八六三	三、一一六、八六三
有、三見村信用組合		二九三	一、四六五、〇〇〇	一七五、二一四	八七、一〇三、七四七	—	八八、七四三、九一一
仝、明木信用組合		三六九	五、七七四、八一三	一、九〇一、九七六	一七九、二〇七、四六二	—	一八六、八八四、二五一
仝、佐々並信用組合		四五五	二、七九〇、〇〇〇	五、四七一、一一〇	二八一、八二七、八八〇	—	二九〇、〇八八、九九〇
無、川上信用組合		二八三	五、〇三〇、〇〇	三、七九五、九一八	一九、一七八、〇三八	五〇〇、〇〇〇	二八、五〇三、九五六
有、篠生村東部信購組合		九三	一、一八二、二二一	五〇二、八〇九	八、四七五、九八〇	—	一〇、一六〇、九一〇
仝、篠目信購組合		一八七	一、六一五、〇〇〇	—	三一、一〇三、六二〇	四、五〇〇、〇〇〇	三七、二一八、六二〇
仝、生雲村信用組合		三〇九	一、九五〇、〇〇〇	三五三、二四〇	二六、七一二、六〇五	—	二九、〇一五、八四五
仝、地福村信用組合		三三八	四、三一五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇六	四八、三九四、二三四	—	五三、七〇九、二九八
無、地福村第八區信購組合		三四	三九九、二〇〇	三二四、五九	二九一、一四〇	三、七六八、八〇〇	四、七八三、六四九
仝、地福村用路信購組合		二八	一、一二〇、〇〇〇	八六二、六四三	七、三三八、二五五	七六一、一三五	一〇、一〇一、七三三
有、德佐信用組合		五七四	五、四五八、九三五	一、〇七七、二四五	六〇、八四九、四五八	四、四三九、九二〇	七一、八三五、五五八
仝、德佐上信用組合		一六〇	一、六七一、〇〇	二四〇、〇八五	一〇、三〇九、七八二	—	一二、二二〇、八六七

組合名						
無、嘉年村信購組合	四〇二	九、一七六、六〇〇	三、六二九、三六四	六一、八六六、四〇七	二、〇〇〇、〇〇〇	七六、六七二、三七一
有、高保村信用組合	三三六	二、一五七、〇〇二	一、六七三、六〇九	五〇、四四四、五七二	—	五三、二七五、一八三
全、吉部村信購組合	三五一	二、二九四、〇〇〇	二、〇九三、三五九	四四、五七六、九五五	—	四八、九六四、三一四
全、福川信用組合	一七三	八六九、〇〇〇	—	三四、〇三七、八七二	—	三四、九〇六、八七二
全、紫福村信用組合	三〇〇	一、七九六、〇〇〇	二九一、六五九	五七、七八〇、九六三	—	五九、八六八、六二三
全、大井信購販生組合	四二五	四、八六九、三〇九	五、五六六、五三八	二〇六、三〇四、一三〇	一、五九九、〇七〇	二二八、三三九、〇四七
全、奈古信購販組合	四七二	五、八七六、六〇〇	七、二三八、二六六	一九二、〇九一、七八九	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二二五、三〇六、六五五
全、宇田信購販組合	二五六	一、五五七、五〇〇	七四八、一四一	五七、〇二七、四三五	—	五九、三三三、〇七六
全、福賀信用組合	三四九	一、四一〇、四八六	三七七、二三四	三三、八九三、二八一	五九、二三三	三五、七四〇、二二四
全、須佐信用組合	四二八	二、六八一、九三〇	二五、七〇四	二、〇三三、八五八	—	四、七四一、四九二
全、彌富信用組合	三五九	九九八、七三〇	二九一、九二五	一〇、一〇九、九八五	二、〇〇〇、〇〇〇	二三、四〇〇、六四〇
全、小川信購組合	六四〇	六、〇八一、四九〇	二、二五八、五九二	二三、七五七、〇四七	四、〇〇〇、〇〇〇	三六、〇九七、一三〇
計	九、〇九八	一〇七、四八八、四五〇	四九、三五七、四九〇	一、七一三、六二二、八五七	四六、九二三、八八八	一、九一七、三八一、六八五

阿武郡産業組合状況調査表 其ノ二

（大正九年九月末現在）

組合名　種目	貸付金	預金	現金	購買額	販賣額
有、萩信用組合	二五、八三三、一六四	二、五〇〇、〇〇〇	九、〇七五、三三四	—	—
全、萩積善信用組合	四九、三六一、七〇〇	二、〇六八、三三〇	一、〇三四、七四八	—	—
全萩夏蜜柑販購、生、組合	九三三、〇六七	—	—	一九、一六六、四五〇	九、二五四、二九〇
全、北古萩信購販、組合	八、八四二、五〇四	二、八五一、八八八	一三七、五〇六	二二、九九九、六〇四	—

組合名	貸付金	預金	現金	購買額	販賣額
全、椿村信用組合	九六、六九九、四一〇	二、〇一三、五一〇	三六四、〇七八	—	—
無、山田村信販購組合	—	三〇一、三六〇	—	—	—
有、三見村信用組合	二六、五九一、六四〇	五九、九八二、二三〇	一、〇二五、〇七八	—	—
全、明木信用組合	五八、二九五、八五一	一一三、九九一、八〇七	八七九、一七〇	—	—
全、佐々並信用組合	一五二、七〇五、六二〇	一三九、九五〇、七二〇	七、四三二、六五〇	—	—
無、川上信用組合	二七、〇〇六、七〇一	二、〇九三、二八〇	一八九、五四一	—	—
有、篠生村東部信購組合	七、三八八、〇〇〇	一、五八五、三三三	四九七、二一五	六、五六九、一八八	—
有、篠目信購組合	二七、〇六〇、八〇一	五、〇二〇、〇七〇	七四七、六七〇	一〇、一九三、四六〇	—
全、生雲村信用組合	七、七六五、〇〇〇	二〇、一七一、七一〇	二八九、八七九	—	—
全、地福村信用組合	四一、八七五、一三〇	一一、一五五、八七七	五一八、八一三	—	—
無、地福村第八區信購組合	二、二六七、六二七	—	二三、七六九	二、九四一、〇六〇	—
全、地福村用路信購組合	八、三九九、四八七	五八五、七八二	二六九、三一二	七三二、四〇〇	—
有、徳佐信用組合	六六、二二一、五六〇	三、八九九、五八七	二、一四五、二六一	—	—
全、徳佐上信用組合	九、〇二三、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	二、〇九一、九八五	—	—
無、嘉年村信購組合	五五、五八七、〇六九	一八、三九〇、八一〇	二、八二九、六六五	七、〇九八、一九八	—
有、高保村信用組合	三二、〇五五、八〇〇	一六、九八六、六七〇	五、六七三、九〇一	—	—
全、吉部村信購組合	三〇、六五九、三七七	八、三三七、七二〇	七四七、四六五	二〇、四三八、七一〇	—
全、福川信用組合	九、六一五、〇〇〇	二四、二八六、一三〇	一、〇〇五、七四二	—	—
全、紫福村信購組合	四五、〇四〇、〇〇〇	一一、九二九、〇七〇	三、三八九、二二九	—	—
全、大井村信販生組合	五六、九八九、三三三	一三八、三六二、七三〇	一、四〇四、九八三	三四、三一四、一七六	—
全、奈古信購販組合	一六五、九〇一、三一〇	四五、九二七、六八〇	二、二二一、六〇六	六、一四六、八五〇	—
全、宇田信購販組合	一七、九九八、八〇四	三七、七七五、五八〇	六七七、五六十	八、七九七、七六八	—

仝、福賀信用組合	二〇、七〇九、〇〇〇	一一、二五三、三二〇	二、三五〇、五九〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
仝、須佐村信用組合	三、三五六、五〇〇	一、五五九、〇五五	一、〇六五、八七〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
仝、彌富信用組合	二三、三九四、三九〇	二、四七一、九三〇	一、一〇二、四四六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
仝、小川信購組合	三四、六六五、二八四	二五一、六一〇	一、〇五一、七八〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一、一一三、八八〇、一四五	六八四、六〇三、七七一	四、九一〇、九九三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

四、阿武郡夏秋蠶狀況表　大正九年分

種別		飼養戶數	掃立枚數	繭		玉繭		出殼繭		屑繭		計	
				數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
夏蠶		一、六九三	二七九	二七六	一〇、三二三	三七	六五九	二	一六〇	二八	四三八	三四三	一一、五七九
秋蠶		二、〇八六	六一二	六〇八	二六、六九九	五三	一、〇一五	七	七〇	四三	六九八	七一一	二八 四八二
計		三、七七九	八九二	八八四	三七、〇二二	九〇	一、六七四	九	二三〇	七一	一、一三六	一、〇五四	四〇、〇六一

備考　本年は前年に比し繭價大暴落の影響を受け飼養戶數に於て七二六戶掃立枚數五四七枚價額九三、七〇五圓を減少せり

五、阿武郡養蠶戶數

	飼養戶數實數	春蠶ノミ飼養スルモノ	夏蠶ノミ飼養スルモノ	秋蠶ノミ飼養スルモノ	春蠶ト夏蠶ヲ飼養スルモノ	春蠶ト秋蠶ヲ飼養スルモノ	夏蠶ト秋蠶ヲ飼養スルモノ	春夏秋蠶ヲ通シテ飼養スルモノ
	三、三六〇	四三九	四五八	二四〇	二七〇	八一四	五四二	五六七

阿武郡報第五十一號　大正九年十一月廿五日發行　◎大正六年十二月十九日第三種郵便物認可　◎毎月一回二十五日發行　一部（代價金拾錢）